

HCLSoftware



HCL OneTest Performance 評価ガイド

1. 評価利用の申し込み

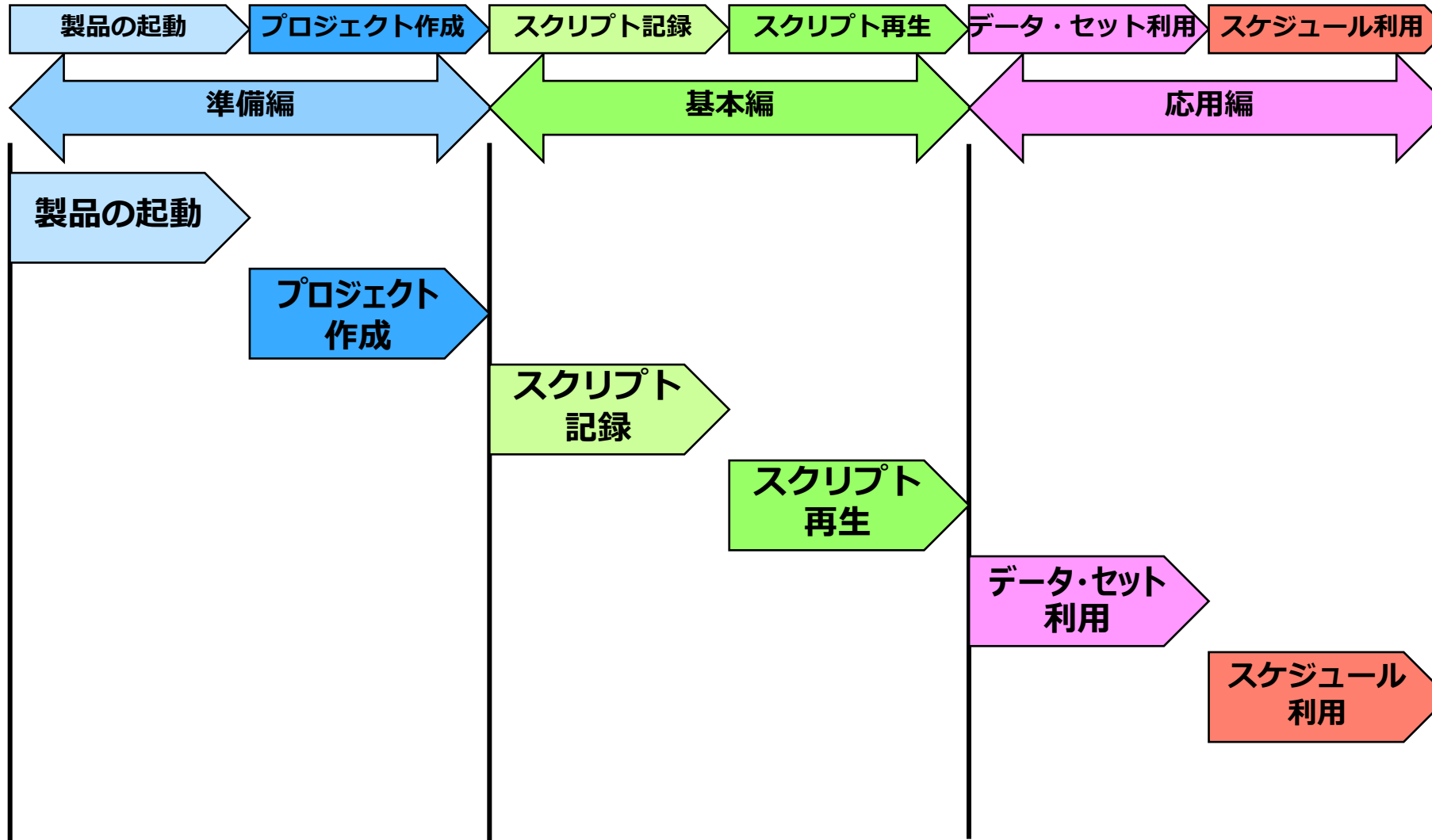
HCL OneTest製品を評価目的で利用するには、申し込みが必要です。

以下のガイドを参照して、申し込みから、ソフトウェアのインストールまでを完了してください。

- 『HCL_OneTest_試行ライセンス利用ガイド』
- 『HCL_CommonLocalLicenseServer_V2.0_導入ガイド』
- 『IBM_InstallationManager_導入ガイド』
- 『HCL_OneTest_Performance_10.2.1_導入ガイド』



2. OneTest Performanceの評価実施の流れ



2-1. HCL OneTest Performanceの起動

製品の起動

プロジェクト作成

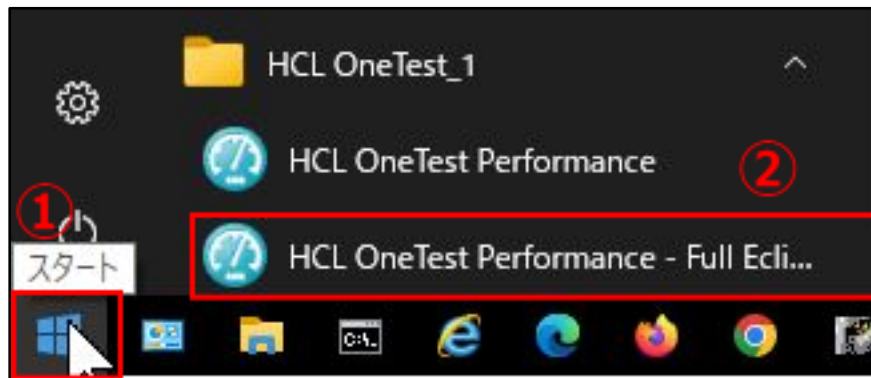
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

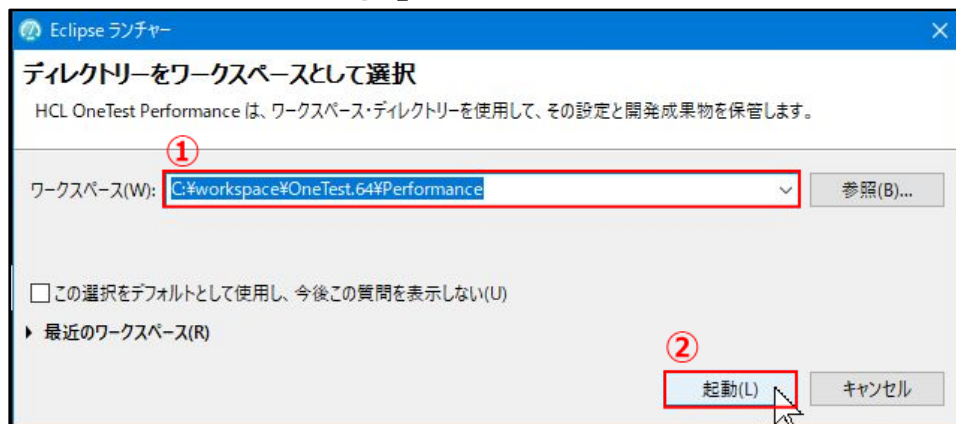
(1) スタート・メニュー



① ウィンドウの**スタート・メニュー**をクリックします。

② **【HCL OneTest Performance – Full Eclipse】** をクリックします。

(2) 「ワークスペースの選択」ダイアログが現れます



① ワークスペースの入力欄にワークスペースのフォルダを入力します。

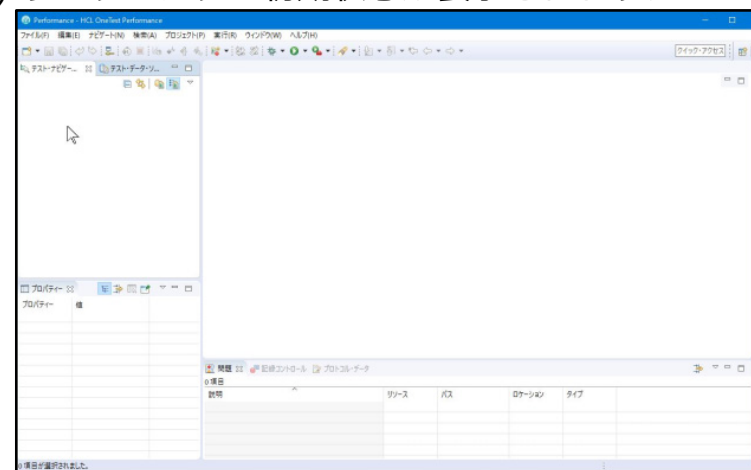
② **【起動】** をクリックします。

(3) OneTest Performanceワークベンチが表示されます。



① 「ようこそ」ウィンドウが現れたら、**【最小化】** をクリックします。

(4) ワークベンチの初期状態が表示されます。



2-2. プロジェクトの新規作成

製品の起動

プロジェクト作成

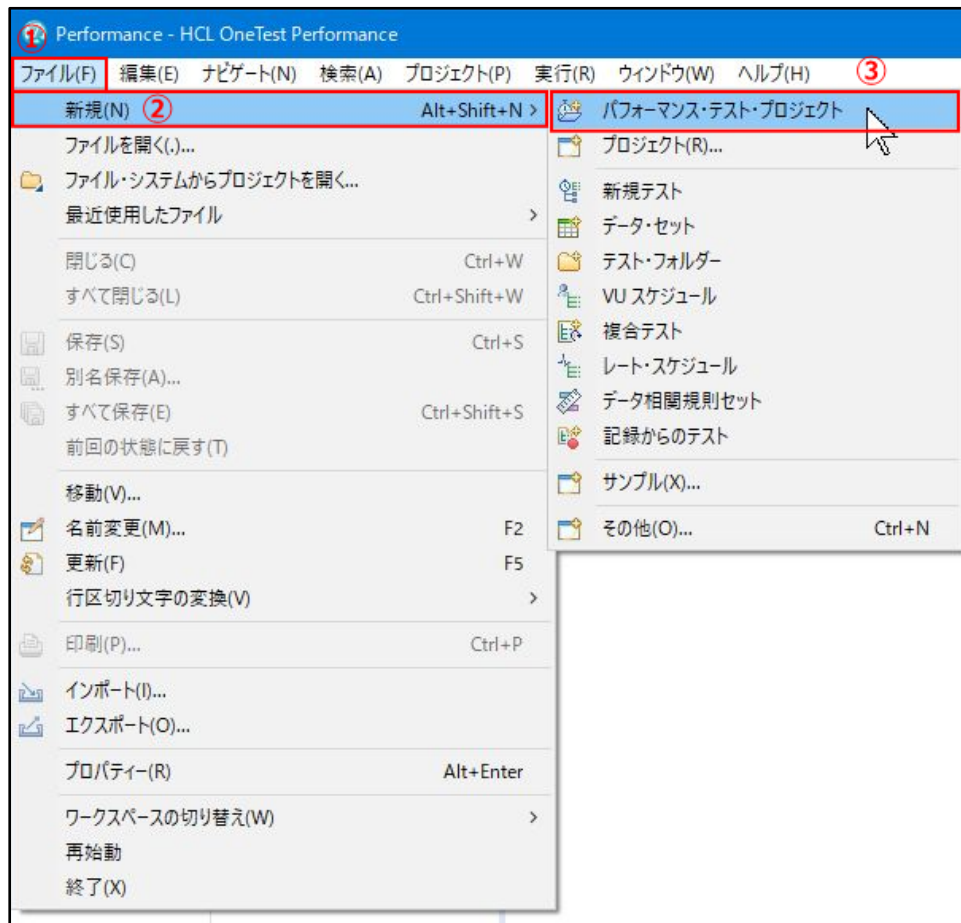
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

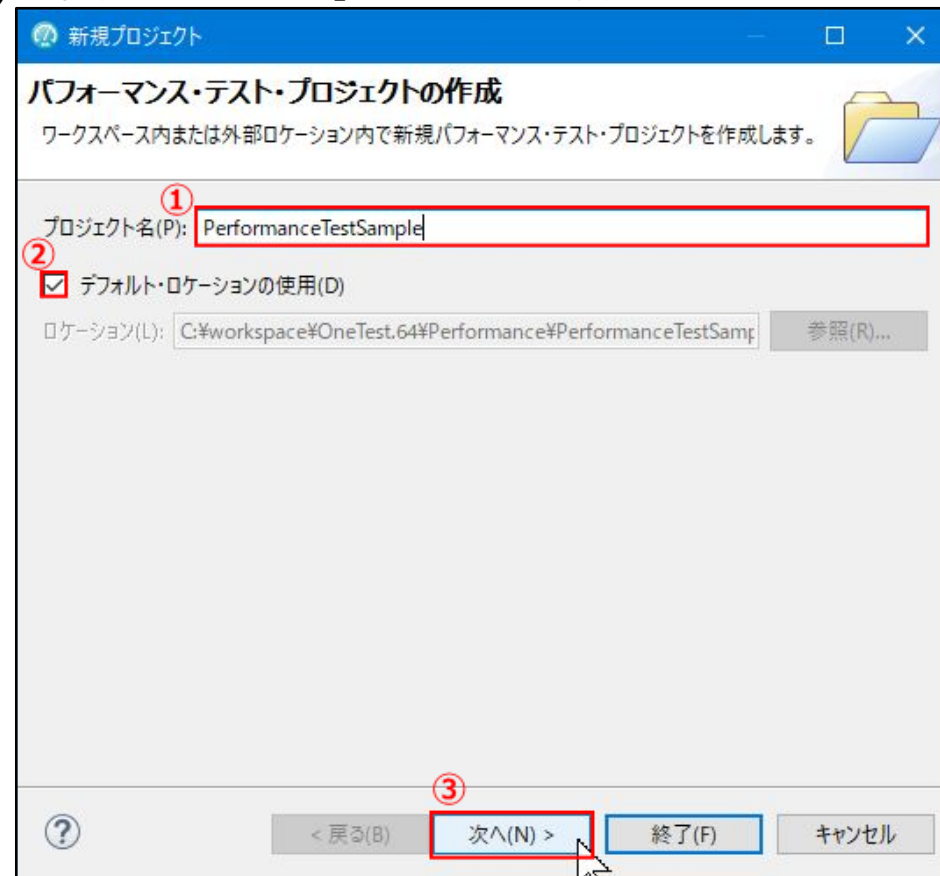
スケジュール利用

(1) OneTest Performanceワークベンチ



- ①メニュー・バーからの「**ファイル**」をクリックします。
- ②プルダウン・メニューから「**新規**」をクリックします。
- ③サブ・メニューから「**パフォーマンス・テスト・プロジェクト**」をクリックします。

(2) 「新規プロジェクト」ダイアログが表示されます



- ①プロジェクト名の入力欄に、**プロジェクト名**を入力します。
- ②「**デフォルト・ロケーションの使用**」をチェックします。
- ③【**次へ**】をクリックします。

2-2. プロジェクトの新規作成

製品の起動

プロジェクト作成

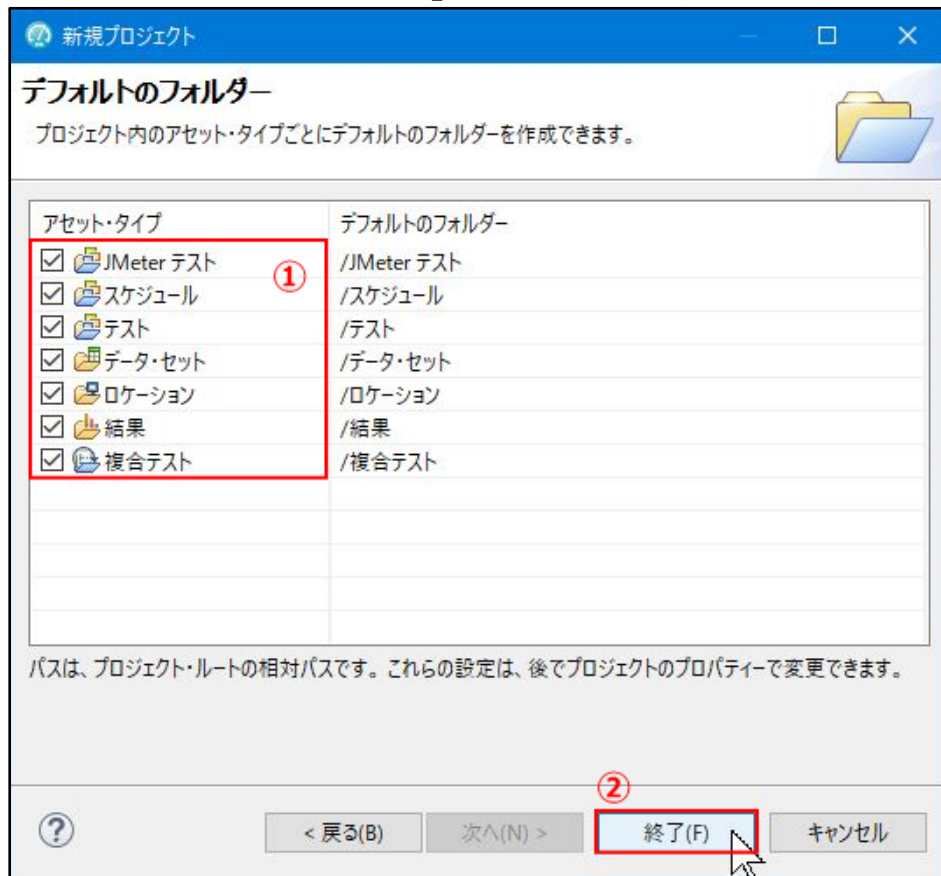
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

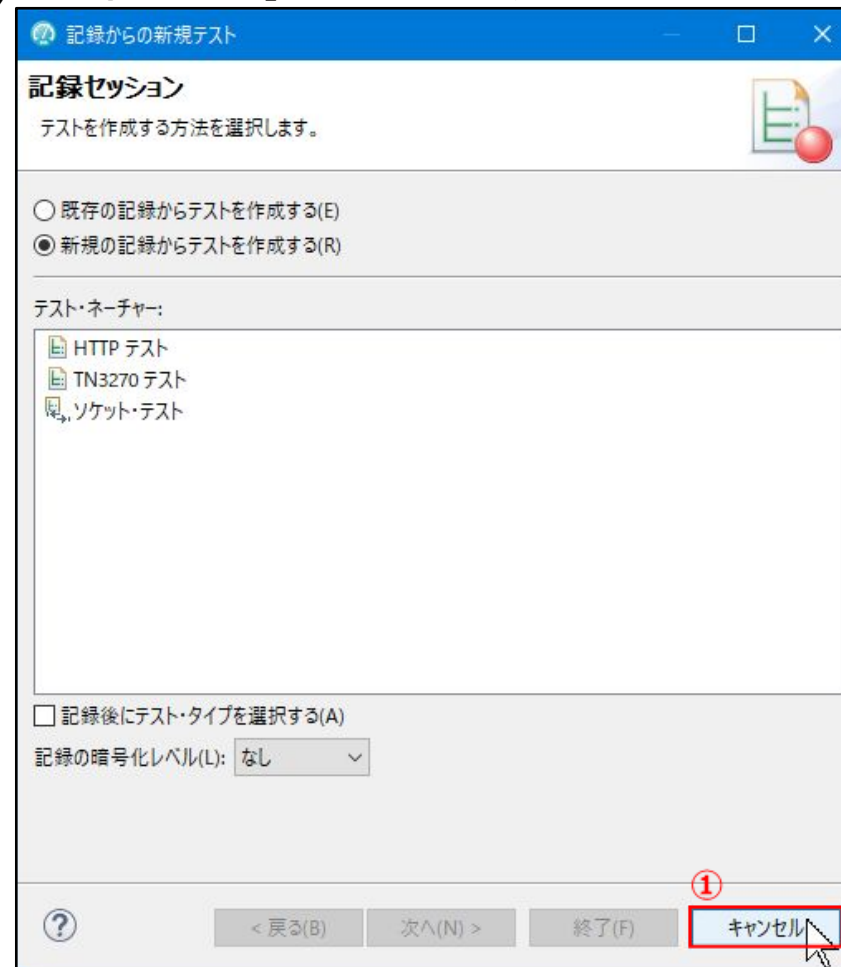
(3) 「デフォルトのフォルダー」ダイアログが現れます。



①アセット・タイプの全てのボックスをチェックします。

②【終了】をクリックします。

(4) 「記録セッション」ダイアログが現れます。



①【キャンセル】をクリックします。

※この段階では、まだ記録は行いません。

2-2. プロジェクトの新規作成

製品の起動

プロジェクト作成

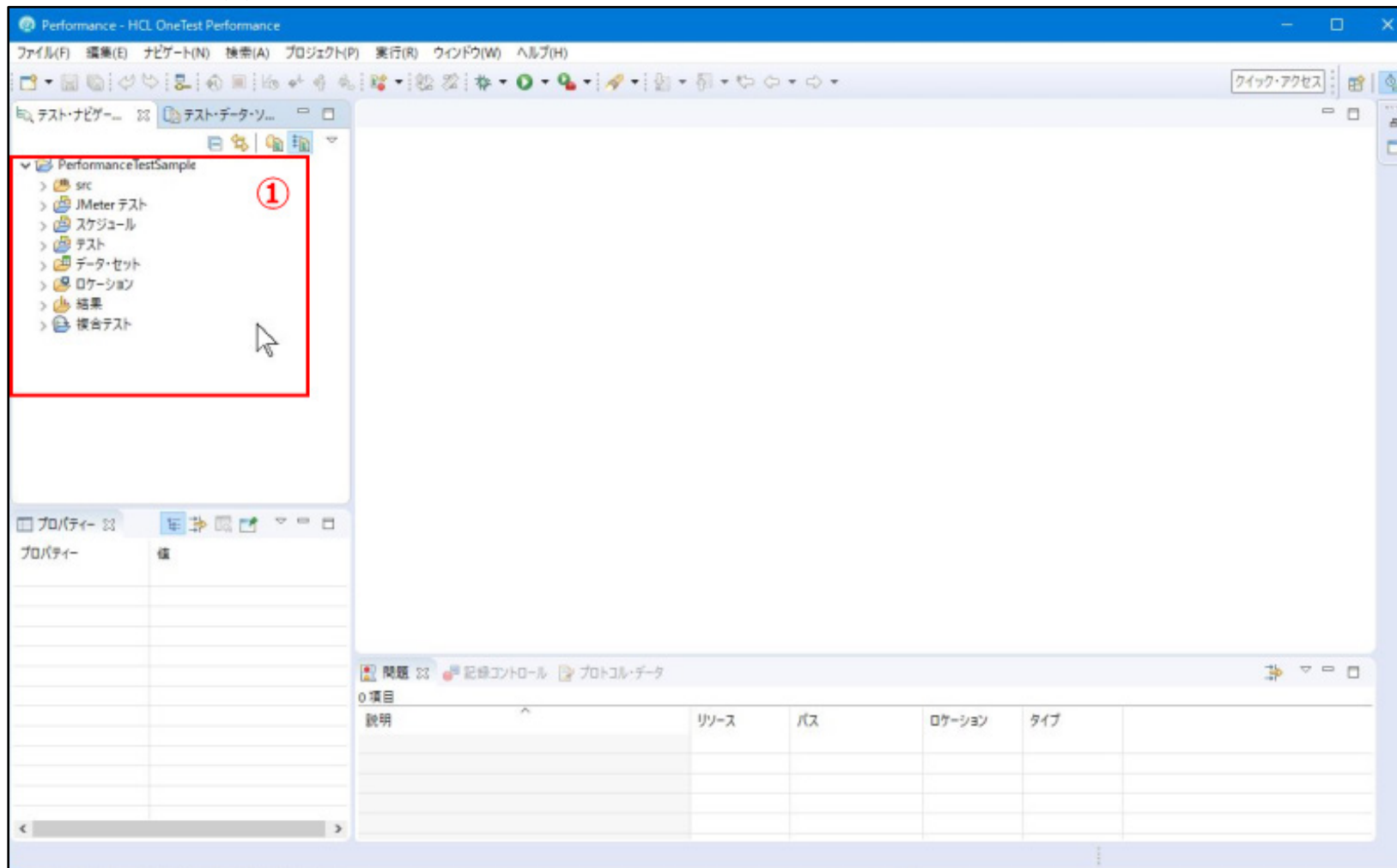
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(5) ワークベンチに戻ります。



2-3. テスト・スクリプトの記録

製品の起動

プロジェクト作成

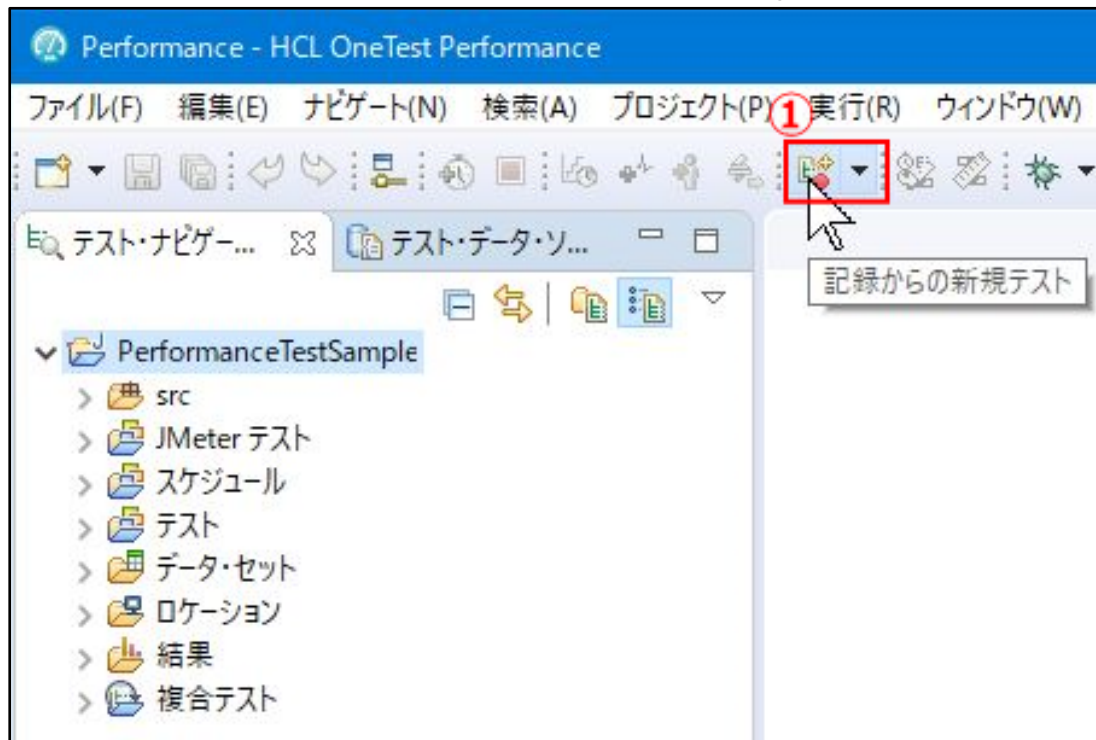
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

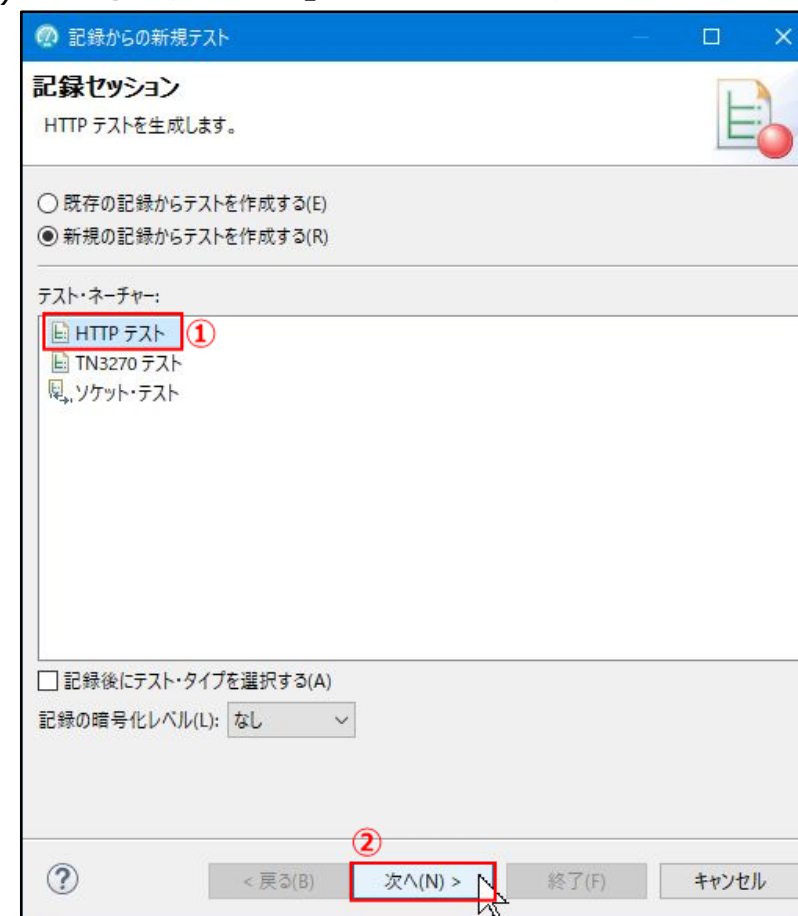
スケジュール利用

(1) ワークベンチでプロジェクトのサブフォルダーを開きます。



① ツールバーから【記録からの新規テスト】をクリックします。

(2) 「記録セッション」ダイアログが現れます。



① テスト・ネーチャーから、「HTTPテスト」を選択します。

② 【次へ】をクリックします。

2-3. テスト・スクリプトの記録

製品の起動

プロジェクト作成

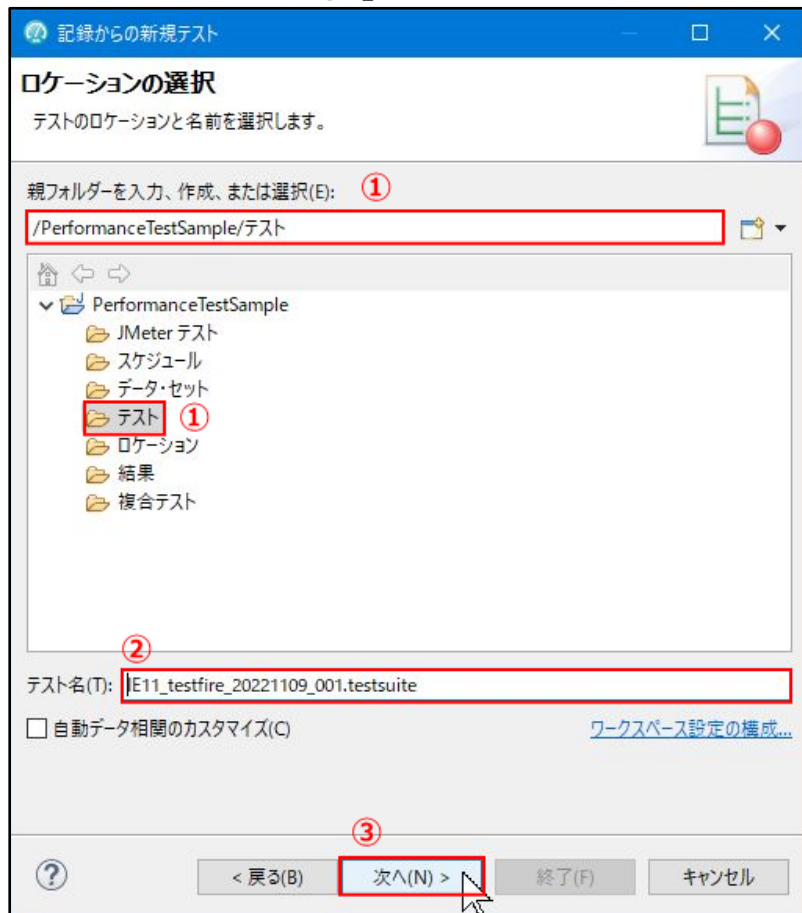
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

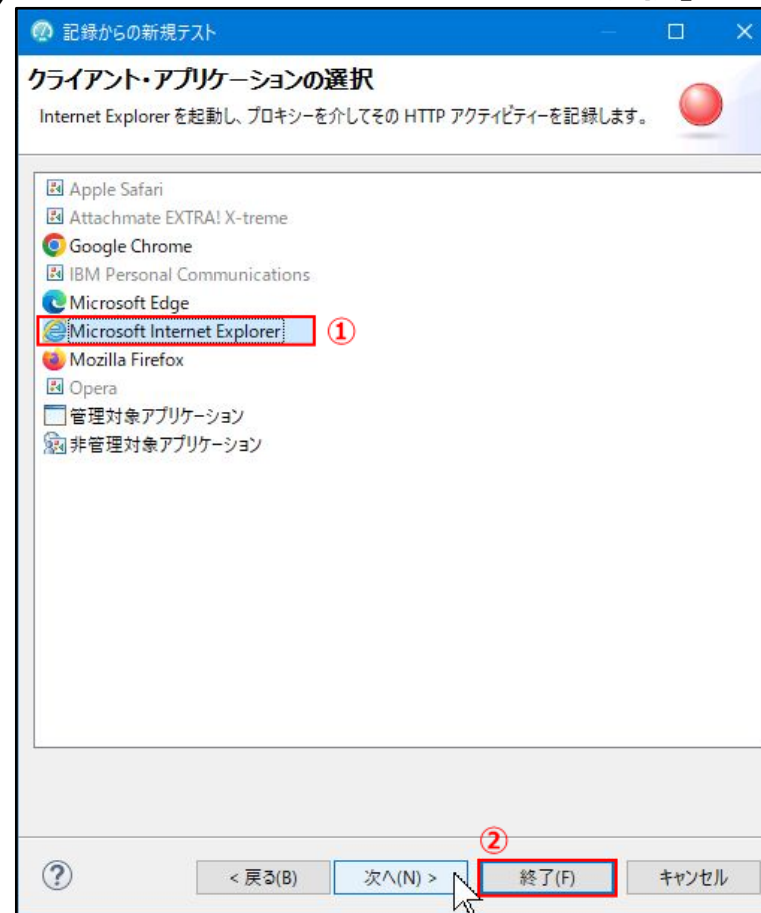
スケジュール利用

(3) 「ロケーションの選択」ダイアログが現れます。



- ① 「親フォルダー」として、「**テスト**」を選択します。
- ② テスト名の入力欄に識別し易い名前を入力します。
- ③ **【次へ】** をクリックします。

(4) 「クライアント・アプリケーションの選択」ダイアログが現れます。



- ① 「**Internet Explorer**」を選択します。
- ② **【終了】** をクリックします。

2-3. テスト・スクリプトの記録

製品の起動

プロジェクト作成

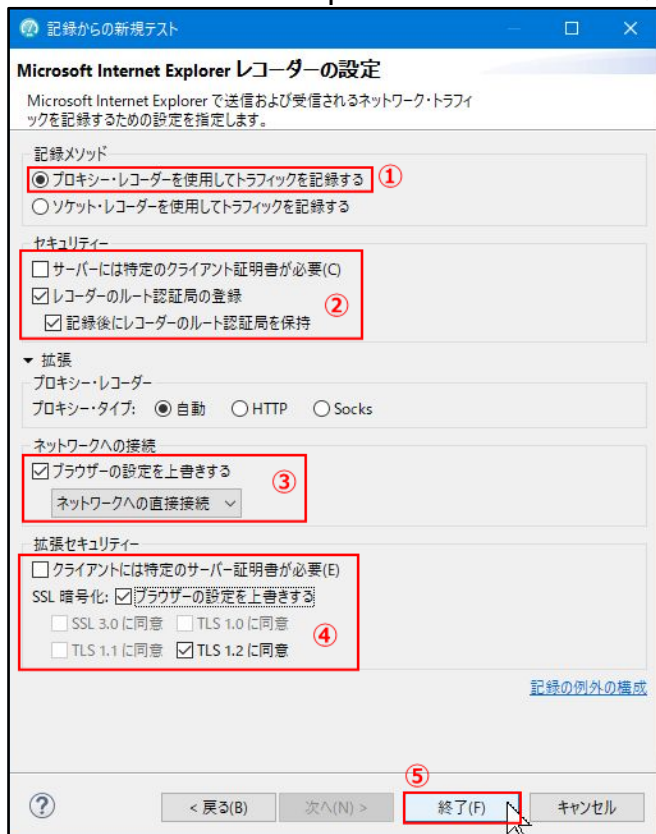
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(5) 「Microsoft Internet Explorerレコーダーの設定」が現れます。



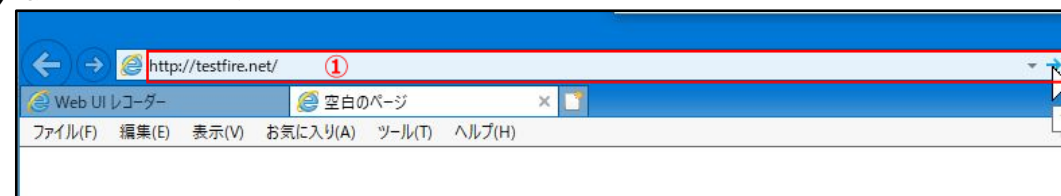
- ① 「プロキシ・レコーダー～」を選択します。
- ② 「ルート認証の登録」と「記録後に保持」をチェックします。
- ③ 「設定を上書き」をチェックし、「直接接続」を選択します。
- ④ 「設定を上書きする」と「TLS1.2に同意」をチェックします。
- ⑤ 【終了】をクリックします。

(6) ブラウザーの「HTTPテスト記録へようこそ」が現れます。



- ① 「新しいタブ」をクリックします。

(7) 新しいタブが現れます。



- ① アドレス・バーに「<http://testfire.net>」を入力します。
※テスト・シナリオの詳細は、OneTest UIの評価ガイドを参照ください。

2-3. テスト・スクリプトの記録

製品の起動

プロジェクト作成

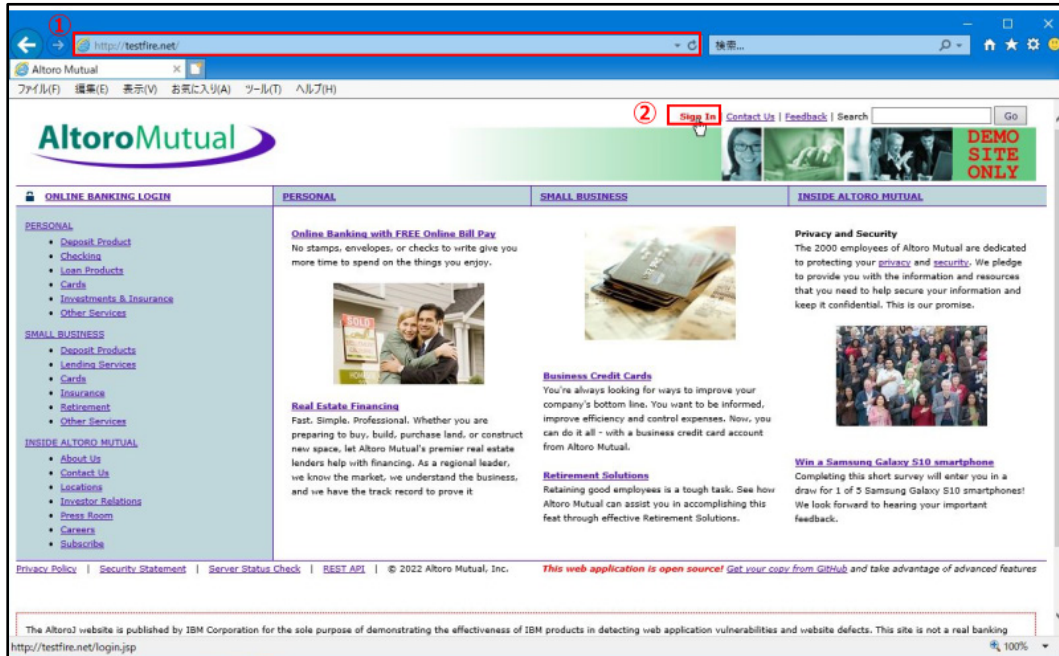
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

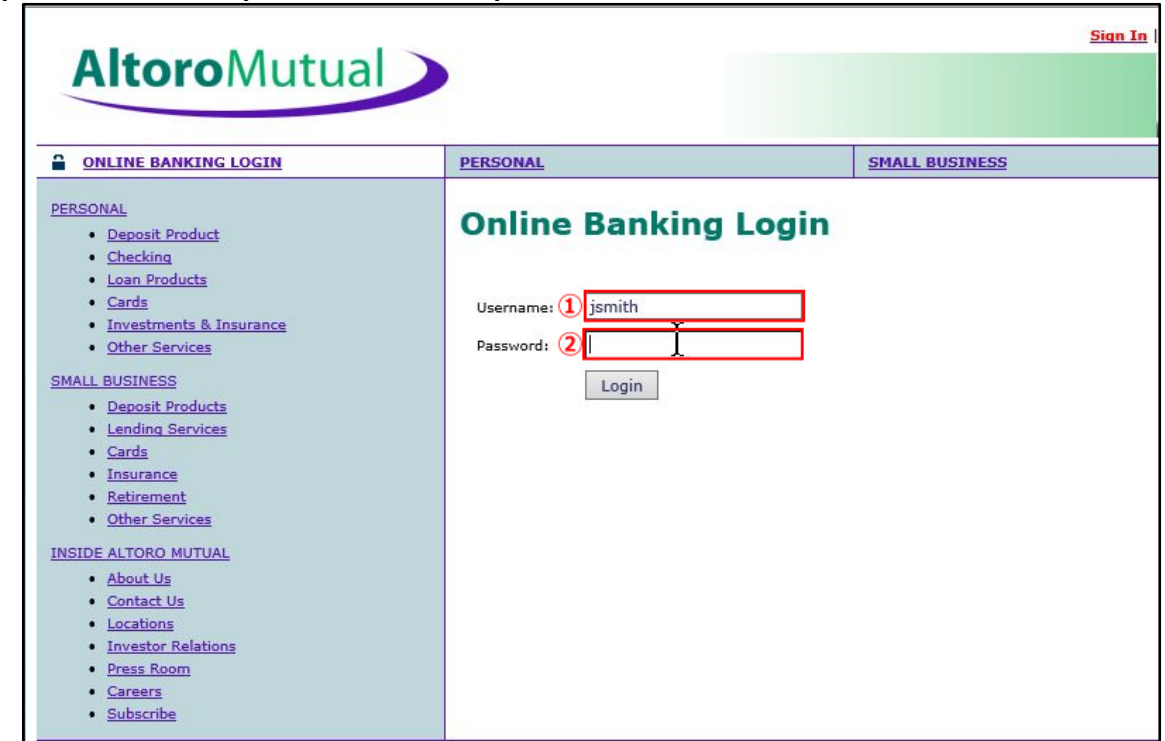
(8) Altoro Mutualの初期画面が現れます。



①アドレス・バーには「<http://testfire.net>」が残っています。

②リンクの「[sign in](#)」をクリックします。

(9) ログイン画面(ユーザー名入力)が現れます。



①Username入力欄をクリックし、「[jsmith](#)」と入力します。

②Password入力欄をクリックします。

2-3. テスト・スクリプトの記録

製品の起動

プロジェクト作成

スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(10) ログイン画面(パスワード入力)

①Password入力欄に「demo1234」と入力します。

②【Login】をクリックします。

(11) ログインすると個別アカウントの画面が現れます。

①View AccountDetailsに、「80002 Savings」と表示されています。

②【GO】をクリックします。

2-3. テスト・スクリプトの記録

製品の起動

プロジェクト作成

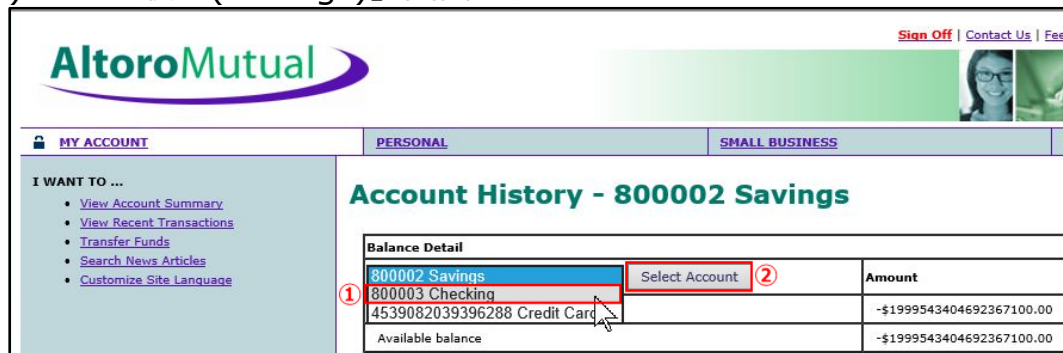
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

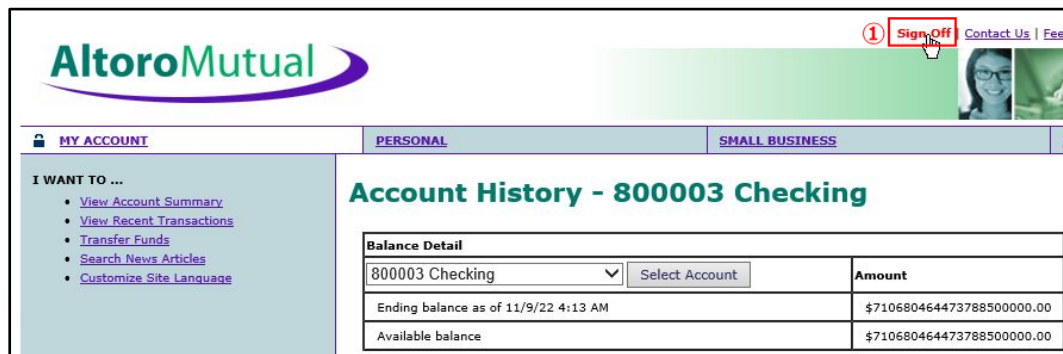
(12) 「口座履歴(Savings)」画面が現れます。



①プルダウン・リストから「800003 Checking」をクリックします。

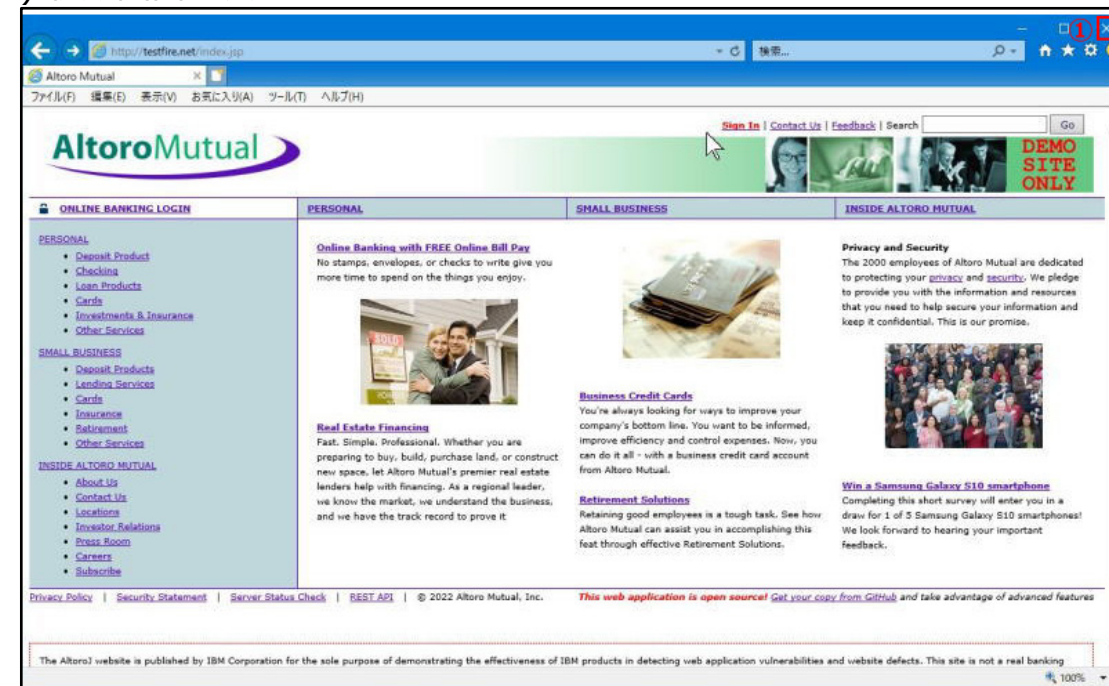
②【Select Account】をクリックします。

(13) 「口座履歴(Checking)」画面が現れます。



①リンクの「Sign Off」をクリックします。

(14) 初期画面に戻ります。



①ウィンドウ右上端の×をクリックして、ブラウザを閉じます。

2-3. テスト・スクリプトの記録

製品の起動

プロジェクト作成

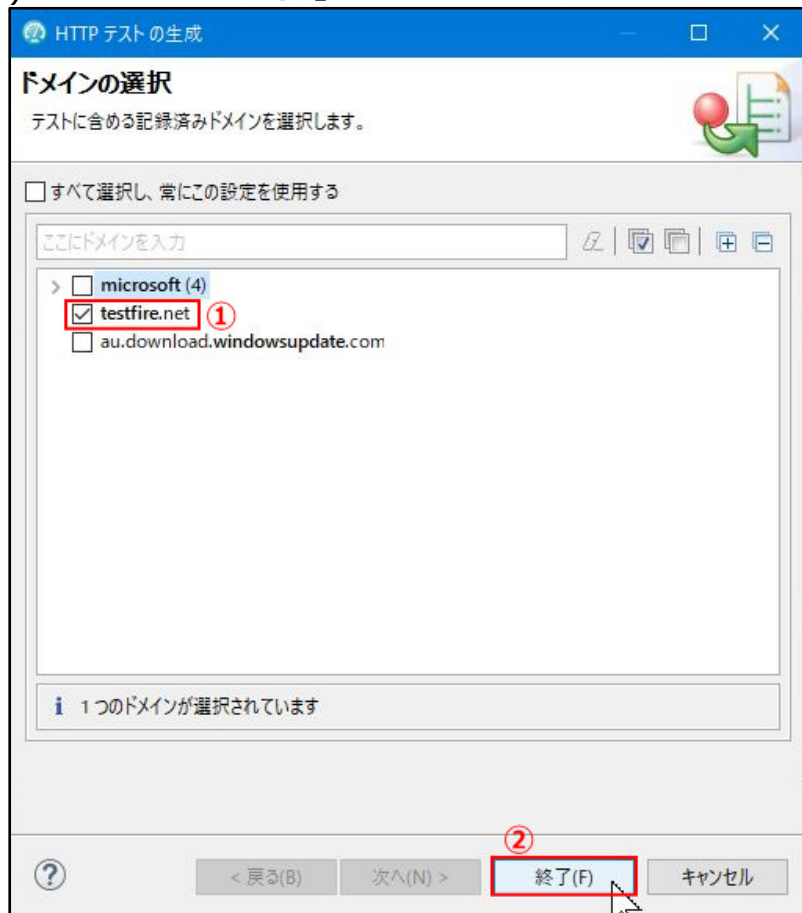
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

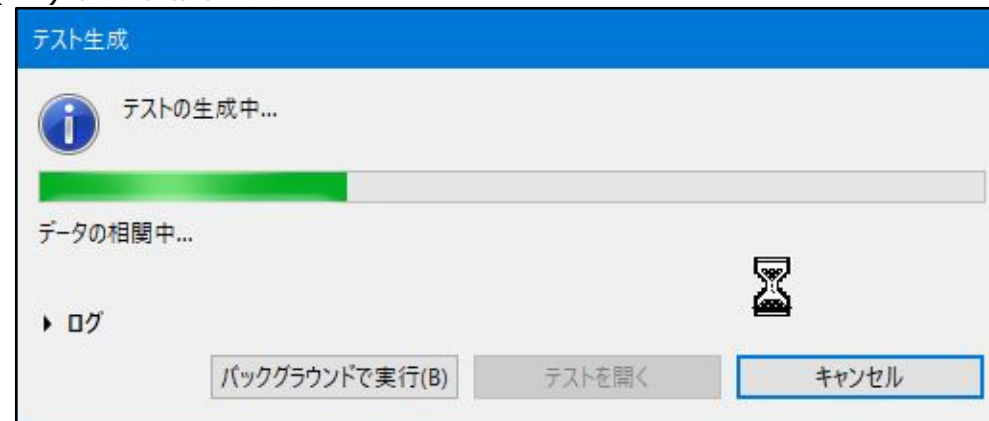
(15) 「ドメインの選択」ダイアログが現れます。



① ドメインの一覧から、「**testfire.net**」のみをチェックします。

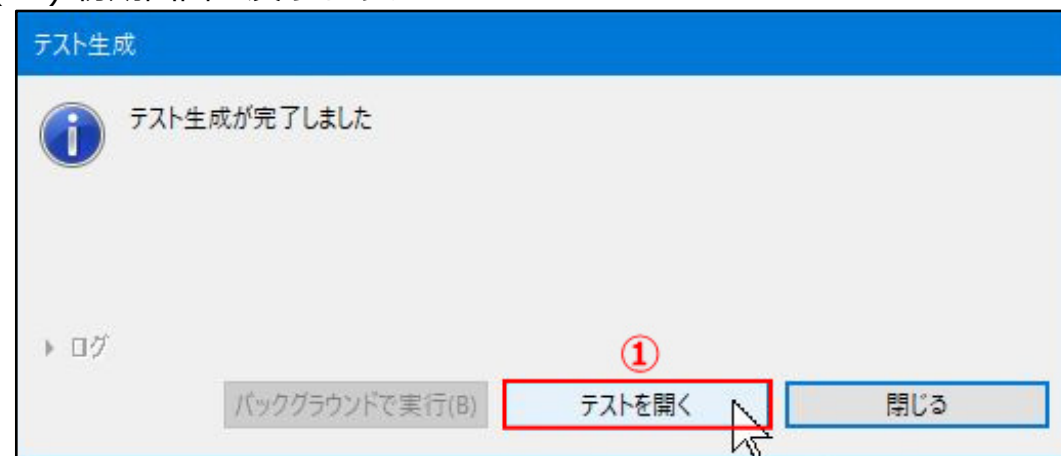
② **【終了】** をクリックします。

(16) 初期画面に戻ります。



テストの生成が完了するまで待ちます。

(17) 初期画面に戻ります。



① **【テストを開く】** をクリックします。

2-3. テスト・スクリプトの記録

製品の起動

プロジェクト作成

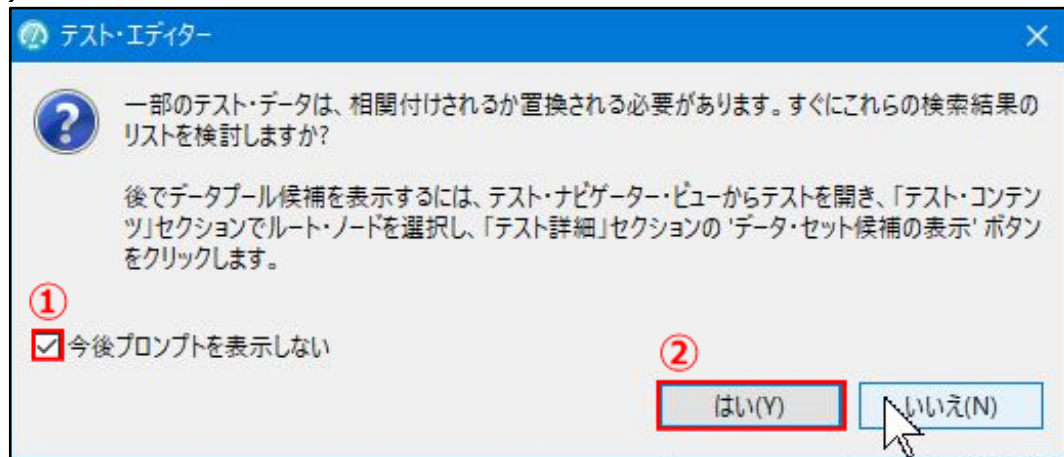
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

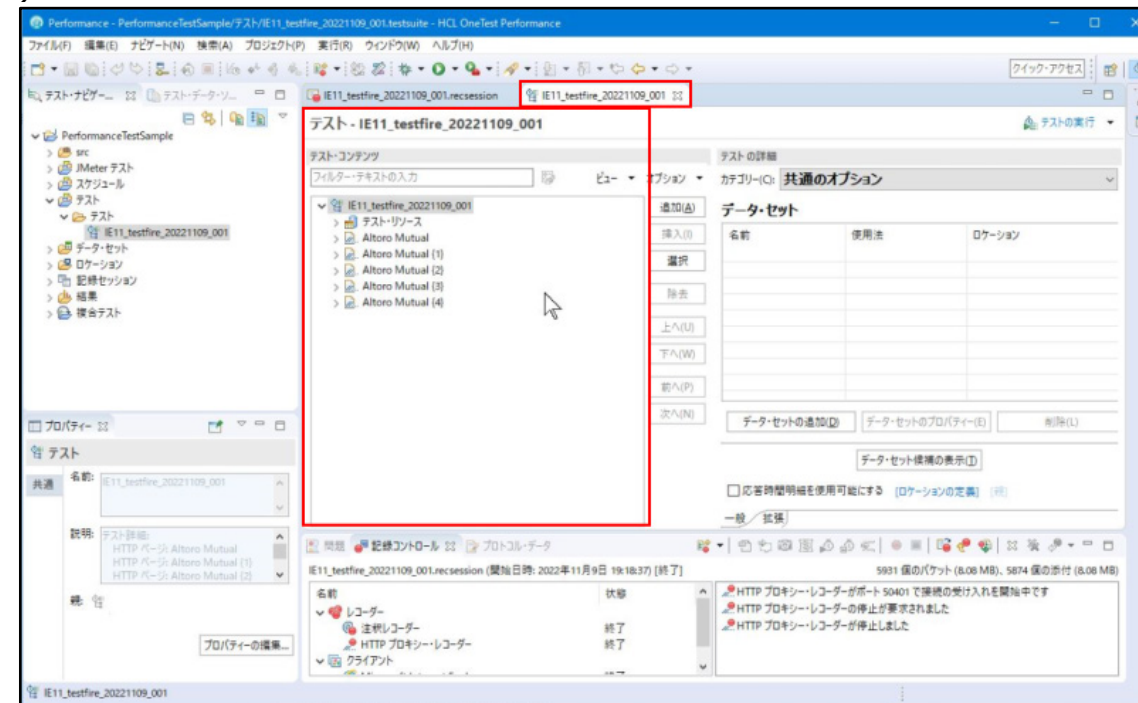
(18) 「テスト・エディター」のダイアログが現れます。



① 「今後プロンプトを表示しない」をチェックします。

② 【はい】をクリックします。

(19) 生成されたテスト・スクリプトが現れます。



2-4. テスト・スクリプトの再生

製品の起動

プロジェクト作成

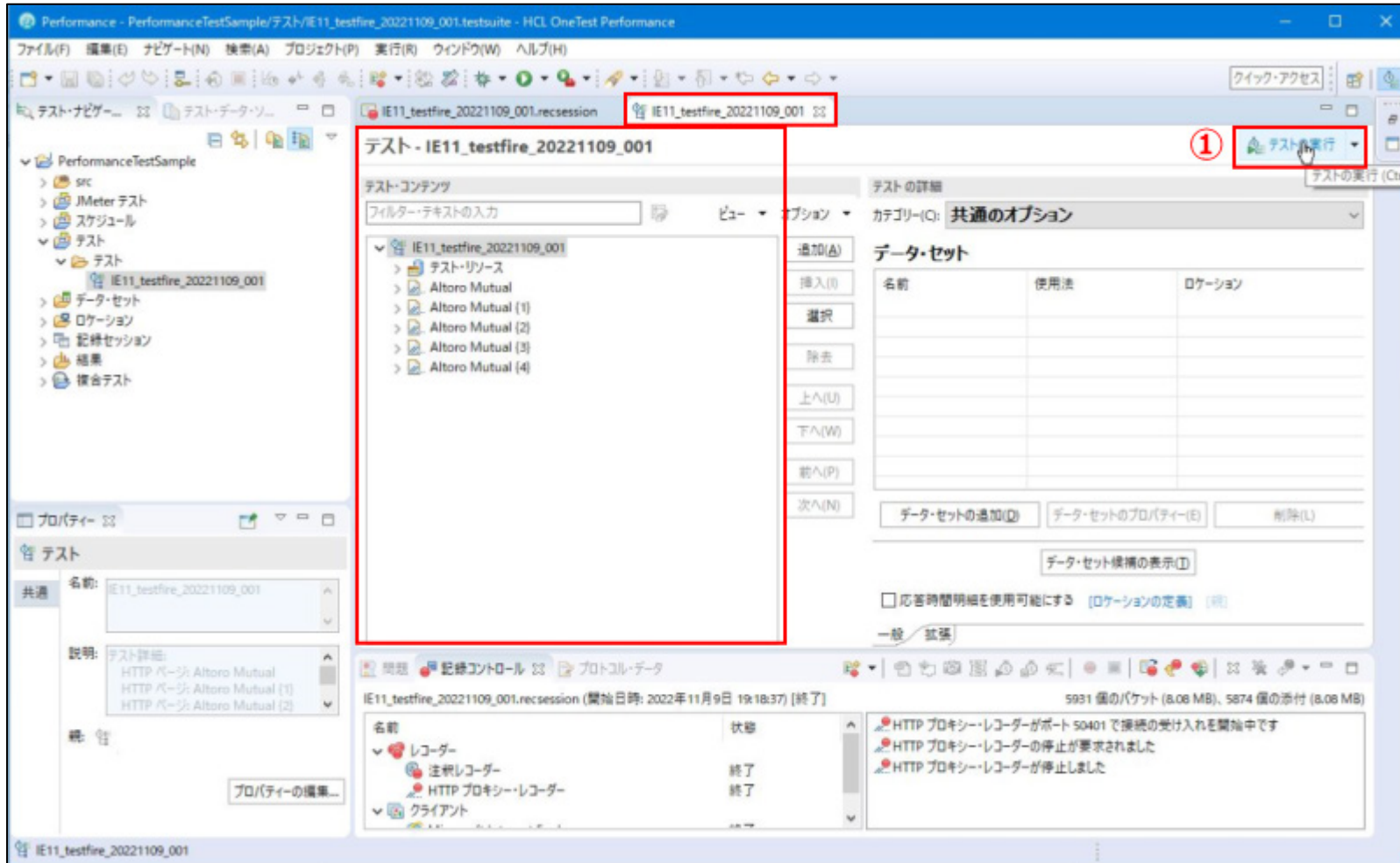
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(1) 生成されたテスト・スクリプトを再生(実行) します。



①テスト・スクリプトを開いた状態で、【**テストの実行**】をクリックします。

2-4. テスト・スクリプトの再生

製品の起動

プロジェクト作成

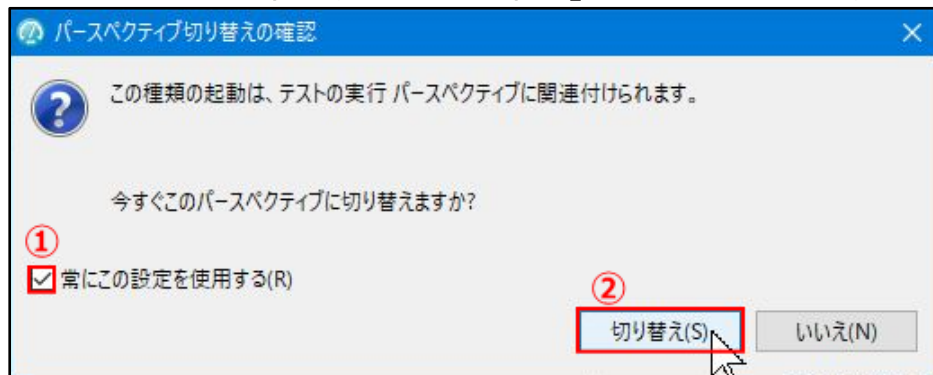
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

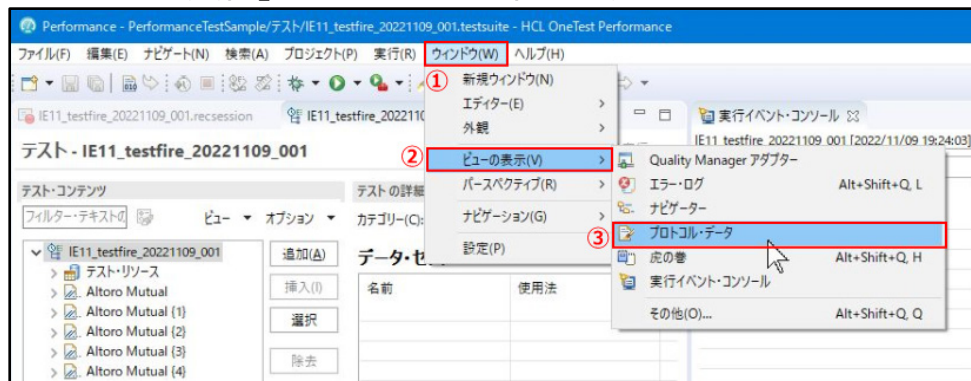
(2) 「パースペクティブ切り替えの確認」のダイアログが現れます。



① 「常にこの設定を使用する」をチェックする。

② 【切り替え】をクリックします。

(3) 「テストの実行」パースペクティブが現れます。

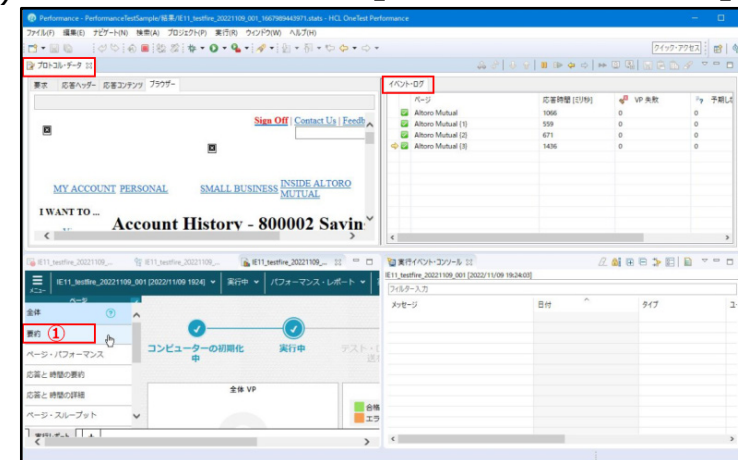


① メニューバーから、「ウィンドウ」をクリックします。

② プル・ダウンメニューから、「ビューの表示」をクリックします。

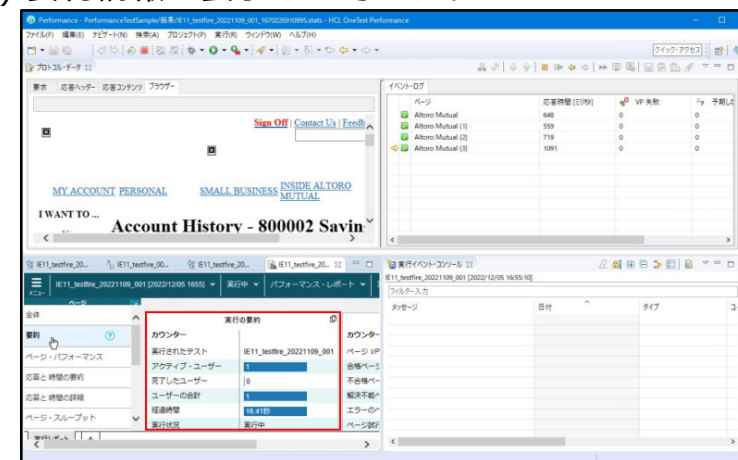
③ 「プロトコル・データ」をクリックします。

(4) 「プロトコル・データ」と「イベント・ログ」のウィンドウが現れます。



① 「要約」をクリックします。

(5) 要約情報が表示されています。



2-4. テスト・スクリプトの再生

製品の起動

プロジェクト作成

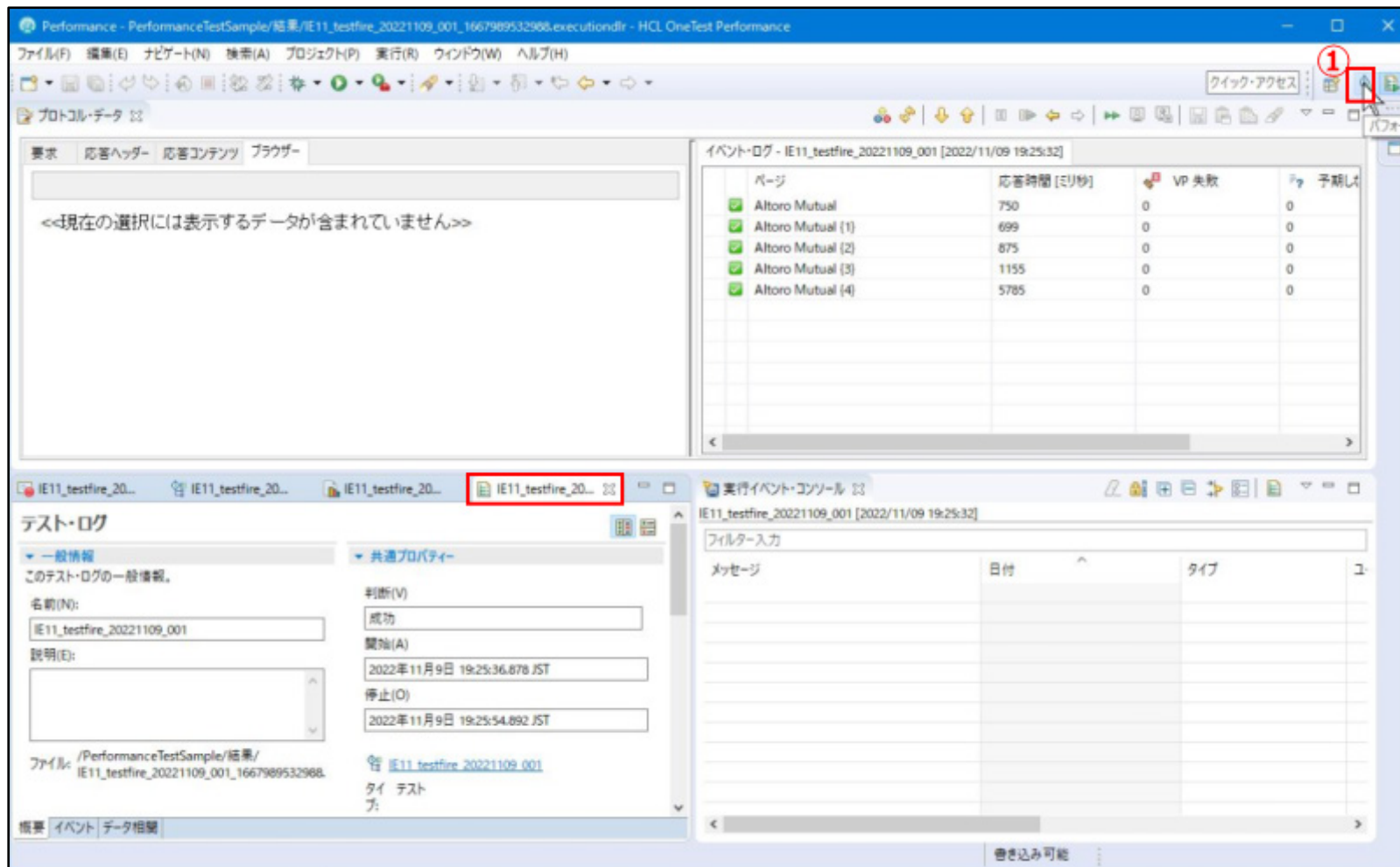
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(6) 実行が完了すると「テスト・ログ」のタブが現れます。



① 【パフォーマンス・テスト】をクリックします。

2-4. テスト・スクリプトの再生

製品の起動

プロジェクト作成

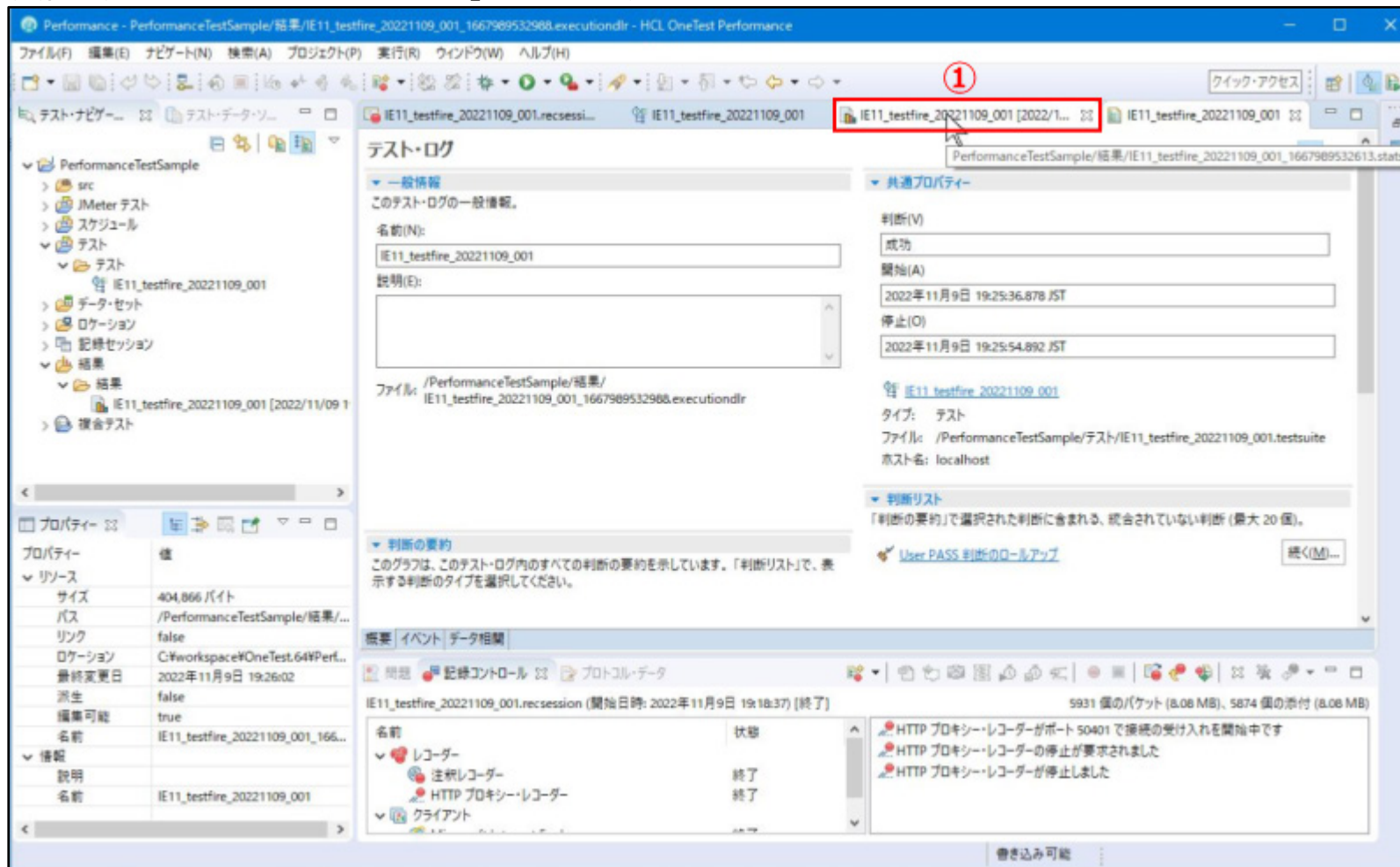
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(7) 実行が完了すると「テスト・ログ」のタブが現れます。



① 「結果レポート」のタブをクリックします。

2-4. テスト・スクリプトの再生

製品の起動

プロジェクト作成

スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(8) 「パフォーマンス・レポート」の要約情報が表示されています。結果は前ページとともに成功しています。

Performance - PerformanceTestSample/結果/IE11_testfire_20221109_001_1667989532613.stabs - HCL OneTest Performance

ファイル(F) 編集(E) ナビゲート(N) 検索(A) プロジェクト(P) 実行(R) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

テスト・ナビゲーター テスト・データ・ソース

PerformanceTestSample

- src
- JMeter テスト
- スケジュール
- テスト
 - IE11_testfire_20221109_001
- データ・セット
- ロケーション
- 記録セッション
- 結果
 - IE11_testfire_20221109_001 [2022/11/09 19:25]
 - 複合テスト

プロパティ

プロパティ

リソース

- サイズ 404,866 バイト
- パス /PerformanceTestSample/結果/...
- リンク false
- ロケーション C:\workspace\OneTest\64\Perf...
- 最終変更日 2022年11月9日 19:26:02
- 派生 false
- 複製可能 true
- 名前 IE11_testfire_20221109_001_166...

情報

- 説明
- 名前 IE11_testfire_20221109_001

実行レポート

実行の要約

カウンター	値
実行されたテスト	IE11_testfire_20221109_001
アクティブ・ユーザー	0
完了したユーザー	1
ユーザーの合計	1
経過時間	30.16秒
実行状況	完了
要件・状況	未定義
要件・合格のパーセント	未定義
エラー動作合計	0
エラー条件合計	0

ページの要約

カウンター	値
ページ VP 合格率 (パーセント)	未定義
合格ページ VP の合計	0
不合格ページ VP の合計	0
解決不能ページ VP の合計	0
エラーのページ VP の合計	0
ページ試行の合計	5
ページ・ヒットの合計	5
すべてのページの正常の合計パーセント	100.0%
すべてのページの正常の合計カウン	5

ページ・サイズの要約

カウンター	値
ページ・サイズの要約	0

問題 記録コントロール プロトコル・データ

IE11_testfire_20221109_001.recession (開始日時: 2022年11月9日 19:18:37) [終了]

5931 個のパケット (8.08 MB), 5874 個の添付 (8.08 MB)

名前 状態

- レコーダー
 - 注釈レコーダー 終了
 - HTTP プロキシ・レコーダー 終了
- クライアント

HTTP プロキシ・レコーダーがポート 50401 で接続の受け入れを開始中です

HTTP プロキシ・レコーダーの停止が要求されました

HTTP プロキシ・レコーダーが停止しました

2-5. データ・セット利用

製品の起動

プロジェクト作成

スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

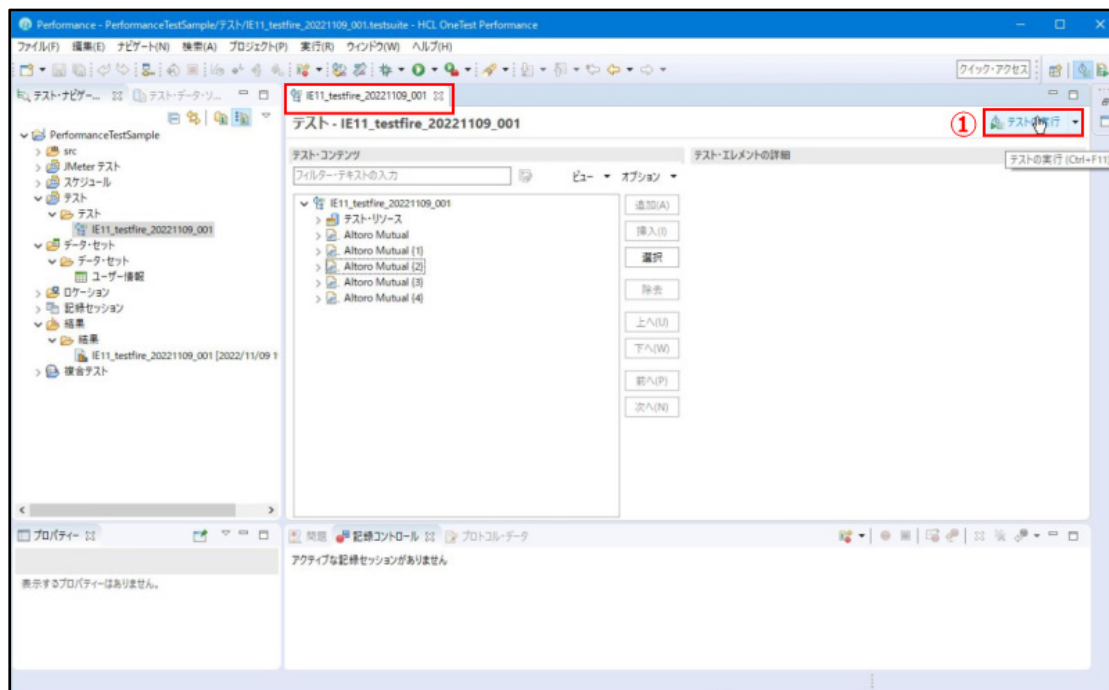
データ・セットとは、特定の属性を持った複数の項目のデータの集合体です。例えば、ユーザー情報として、ユーザーIDやパスワードの集合があります。OneTest Performanceでは、データ・セットのテーブルを定義し、テスト実行時にそれを動的に取り出して、該当する項目に割り当てる機能があります。

データ・セットの作成、置換の方法については、別途「**HCL One Test UI 評価ガイド**」を参照ください。

※ただし、今回のパフォーマンス・テストの場合、全て正しいユーザーID、パスワードを設定します。

ここでは、テスト起動以降の動作について説明します。

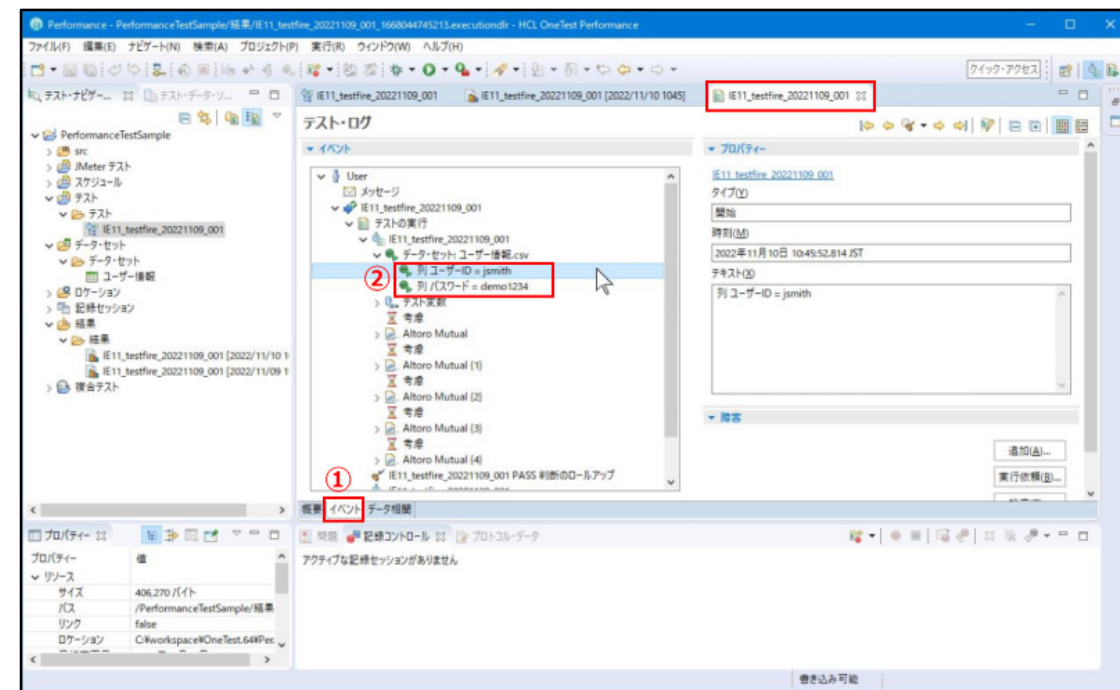
(1) テスト・スクリプトの編集画面に戻ります。



①「**テストの実行**」をクリックします。

※実行時の動作については、「4.スクリプト再生」を参照ください。

(2) 実行後に、「テスト・ログ」を参照します。



①「**イベント**」をクリックします。

②データセットから、ユーザーIDとパスワードが置換されています。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

スクリプト記録

スクリプト再生

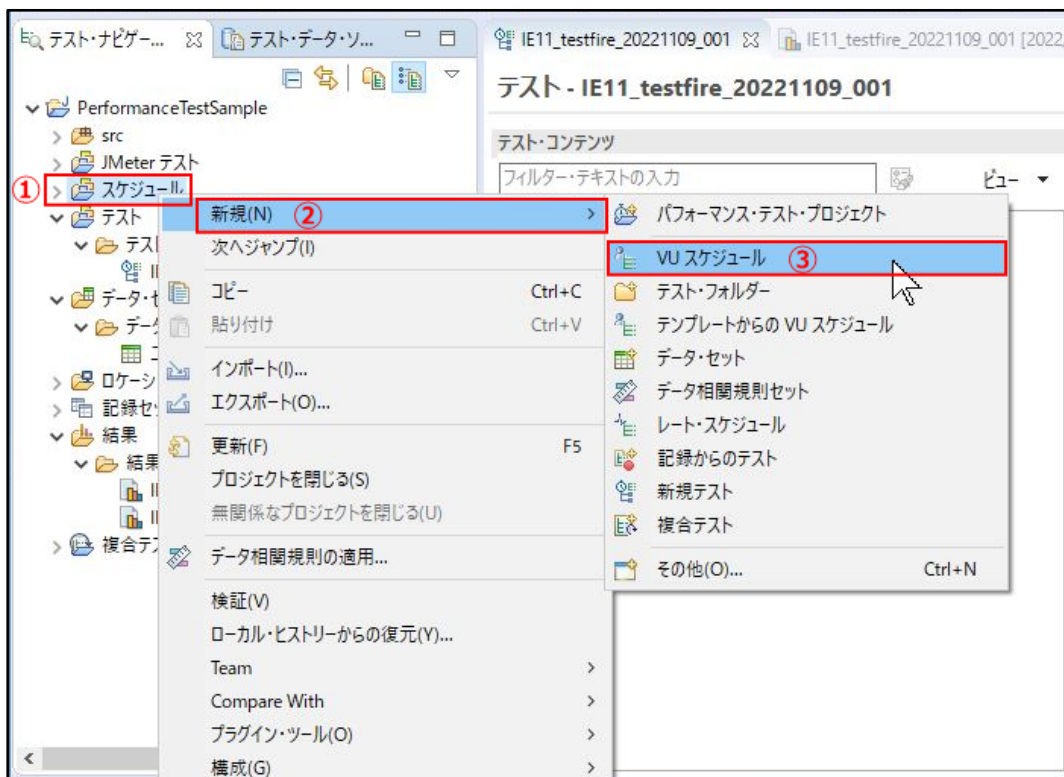
データ・セット利用

スケジュール利用

パフォーマンス検証はシステム全体に対して行うケースが殆どで、複数のアプリケーションに対して複数の仮想ユーザーのグループが行います。それを実現するのがスケジュールです。複数の仮想ユーザーを含む複数のグループに対して、それぞれ個別にテストを割り当てることが可能です。

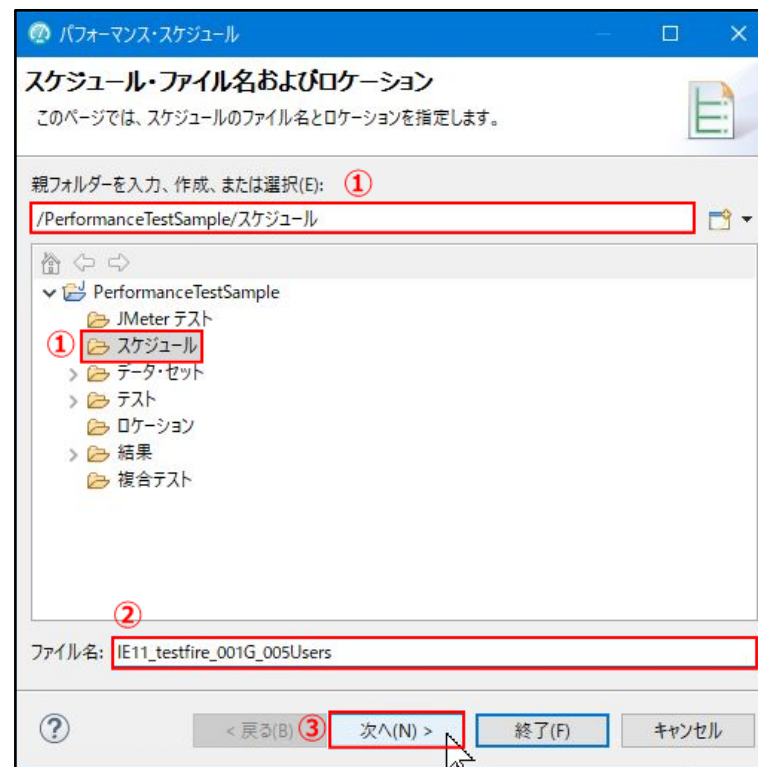
ここでは、基本的なスケジュールの利用方法について記述します。

(1) サンプル・プロジェクトを開いています。



- ①テスト・ナビゲーターでスケジュールを選択し、右クリックします。
- ②ポップアップ・メニューで「新規」をクリックします。
- ③サブ・メニューから「VUスケジュール」をクリックします。

(2) 「スケジュール・ファイル名およびロケーション」が現れます。



- ①親フォルダーに「スケジュール」を指定します。
- ②名称を入力します。この例では1グループで5ユーザーを含みます。
- ③【次へ】をクリックします。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

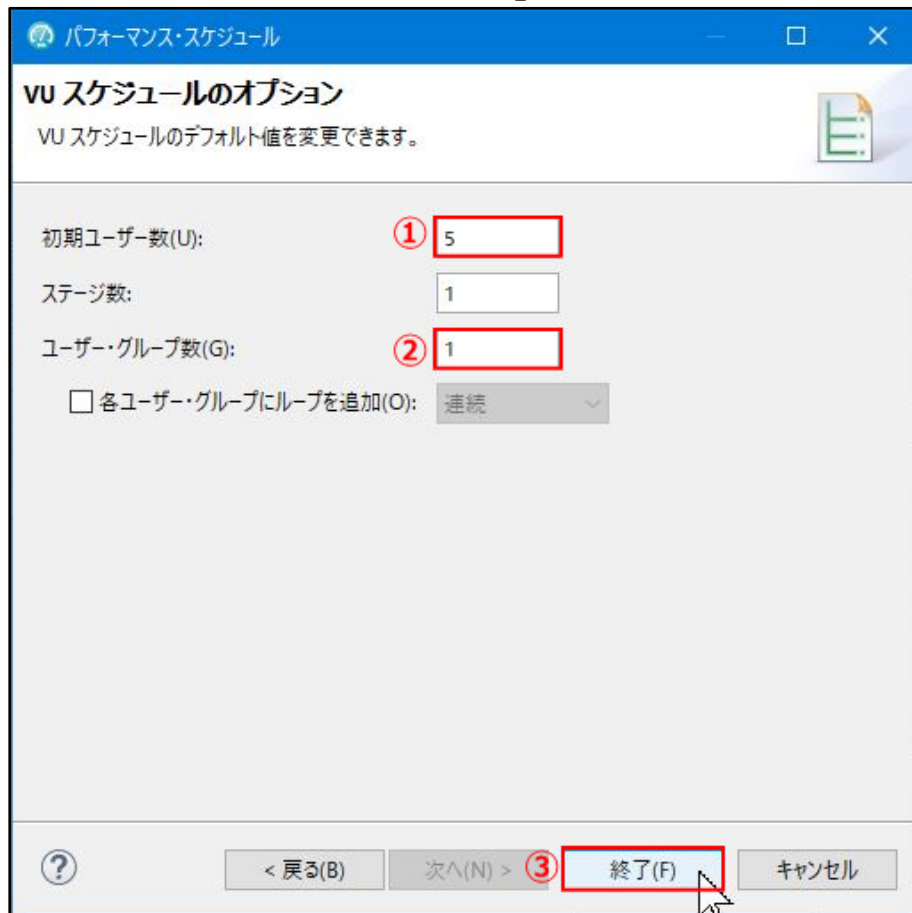
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(3) 「VUスケジュールのオプション」のダイアログが現れます。

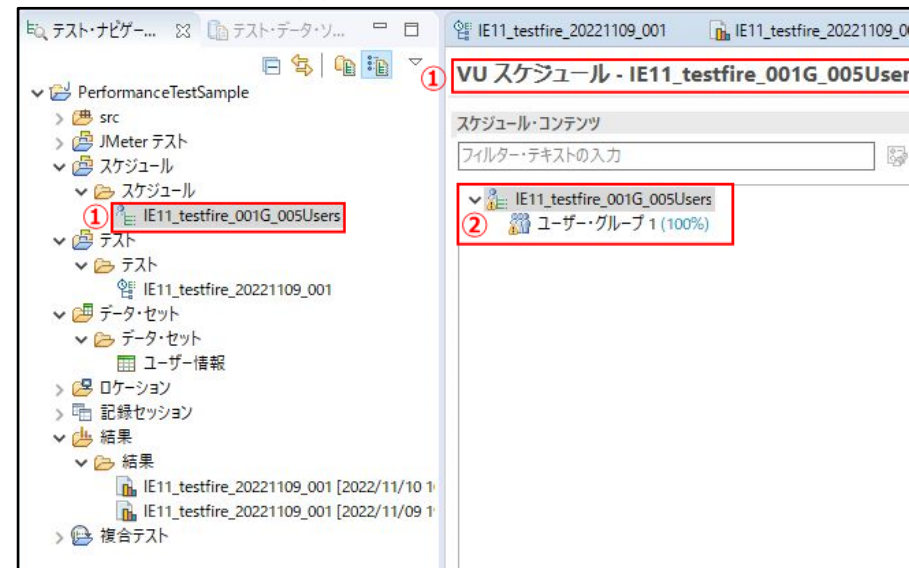


①この例では、初期ユーザー数に5を設定します。

②ユーザー・グループ数に1を設定します。

③【終了】をクリックします。

(4) ワーク・ベンチに戻ります。



①新規にスケジュールが作成されています。

②スケジュールの元に1つのユーザー・グループが作成されています。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

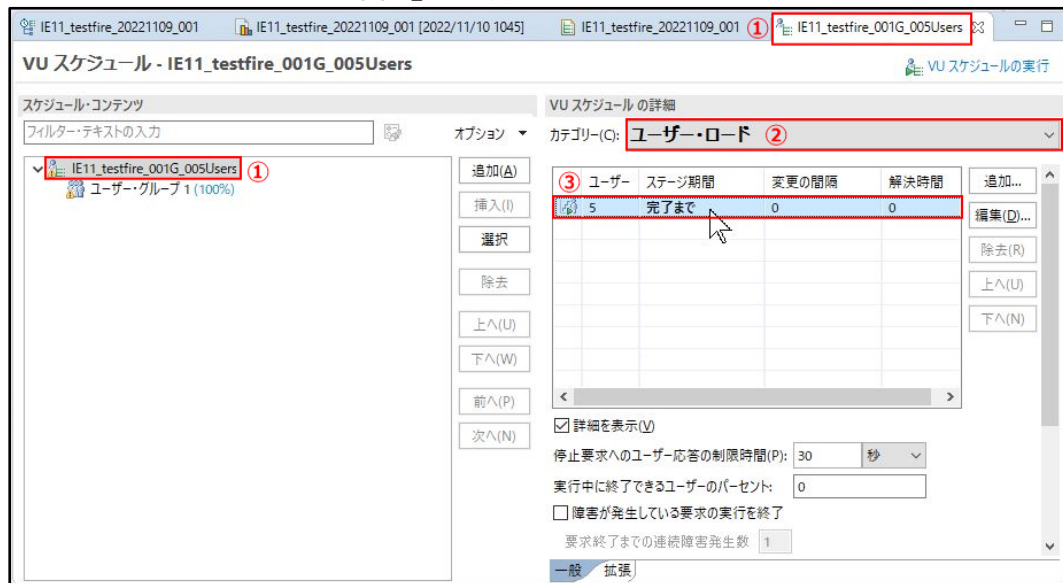
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

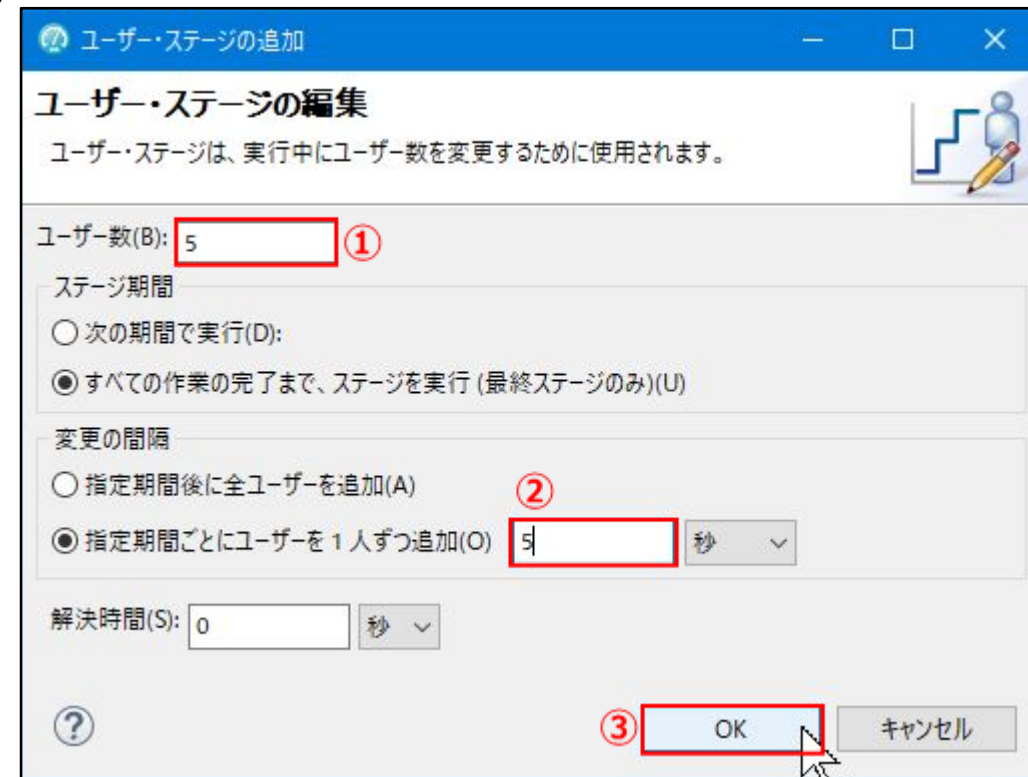
スケジュール利用

(5) 「VUスケジュールの詳細」を設定します。



- ① スケジュールのエディターを開きます。
- ② カテゴリーで「ユーザー・ロード」を選択します。
- ③ 最初のユーザーをダブル・クリックします。

(6) ワーク・ベンチに戻ります。



- ① ユーザー数には当初の5が設定されています。
※今回はこの5人のユーザーを5秒の間隔で1人ずつロードします。
- ② 「指定期間ごとに・・・」をクリックし、値に5秒を設定します。
- ③ 【OK】をクリックします。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

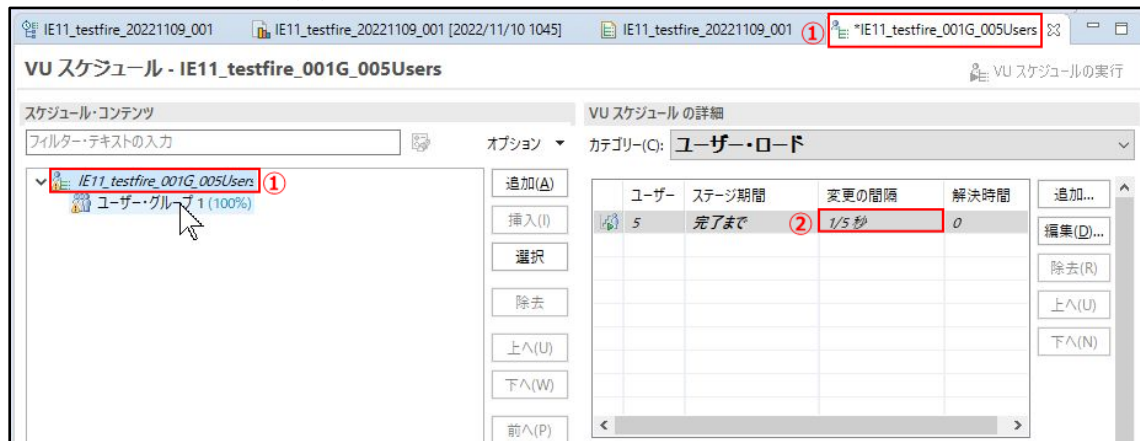
スクリプト記録

スクリプト再生

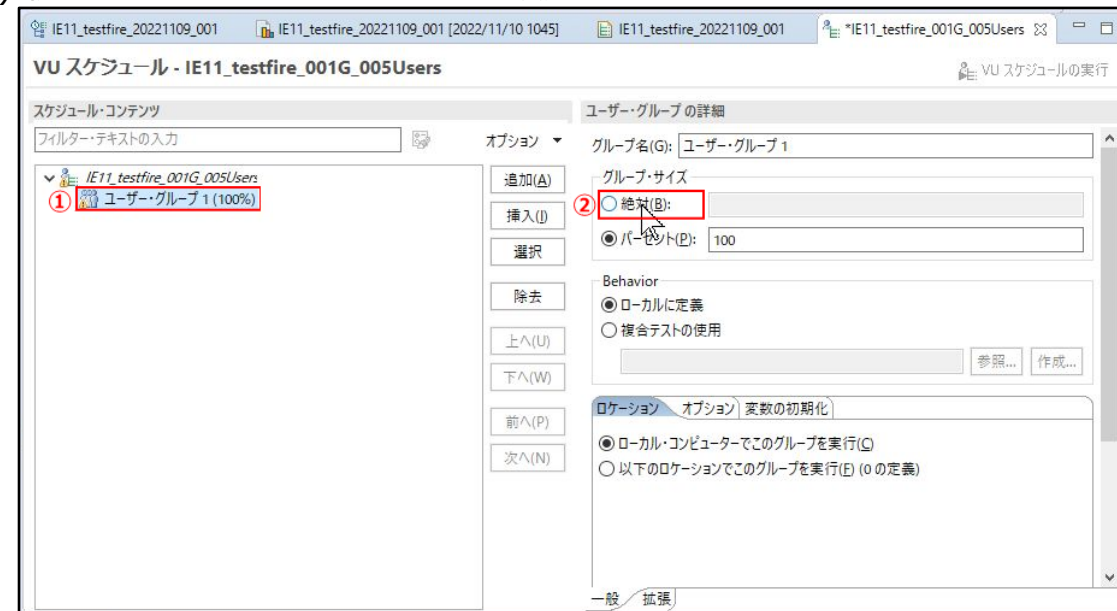
データ・セット利用

スケジュール利用

(7) ワーク・ベンチに戻ります。



(8) 続いて、ユーザー・グループを設定します。



2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

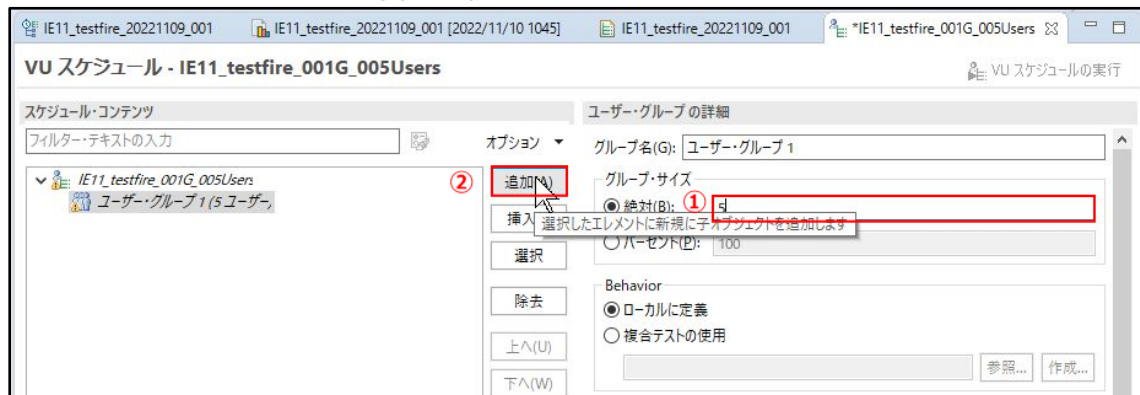
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

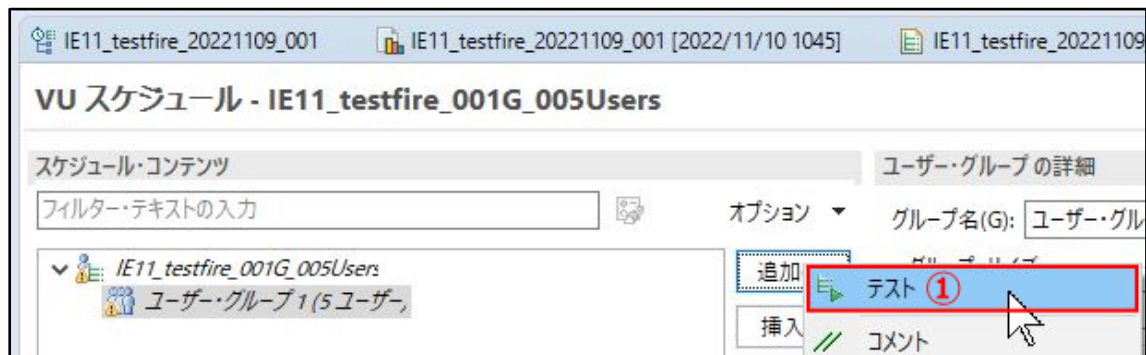
スケジュール利用

(9) ユーザー・グループの詳細の続きです。



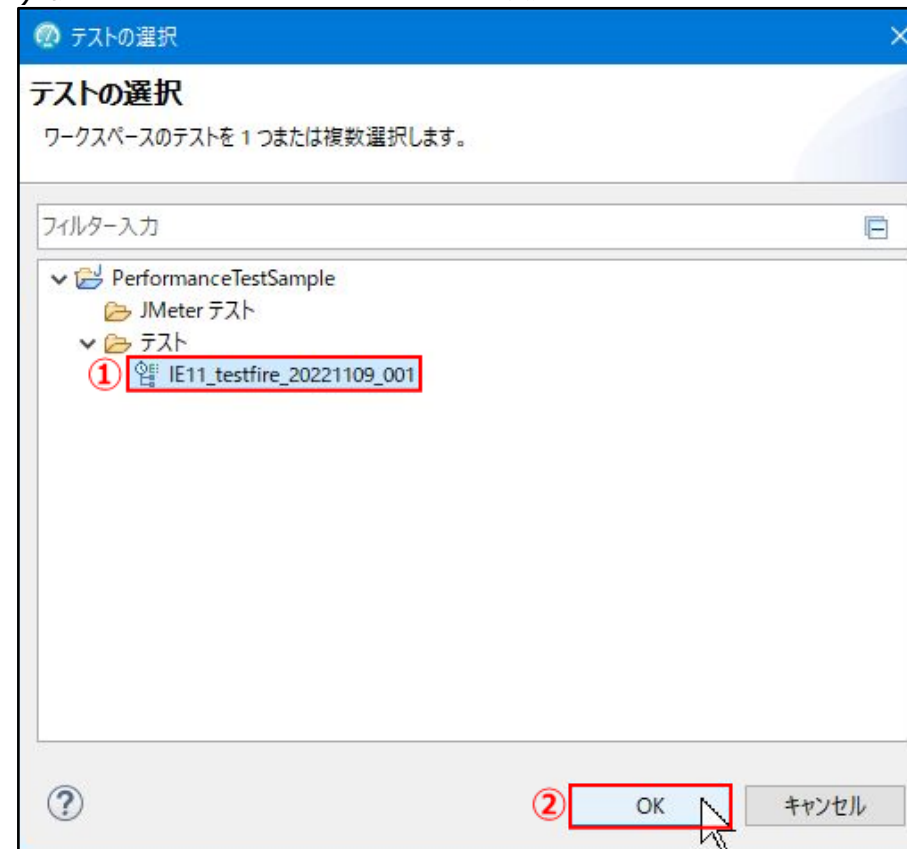
- ①グループ・サイズの絶対数に5(全てのユーザー)を指定します。
- ②テストを追加するために【追加】をクリックします。

(10) ポップアップ・メニューが現れます。



- ①メニューから「テスト」をクリックします。

(11) 続いて、ユーザーグループを設定します。



- ①テストの一覧から追加対象のテストを選択します。
- ②【OK】をクリックします。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(12) エディターに戻ります。



①テストが追加されていることを確認し、スケジュールを保管します。

(13) 続いて、作成したスケジュールを実行します。



①【VUスケジュールの実行】をクリックします。

(14) パースペクティブを「テストの実行」に切り替えます。



①クイックアクセスで【テストの実行】アイコンをクリックします。
※テスト・スクリプトと違って、自動的に切り替わりません。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

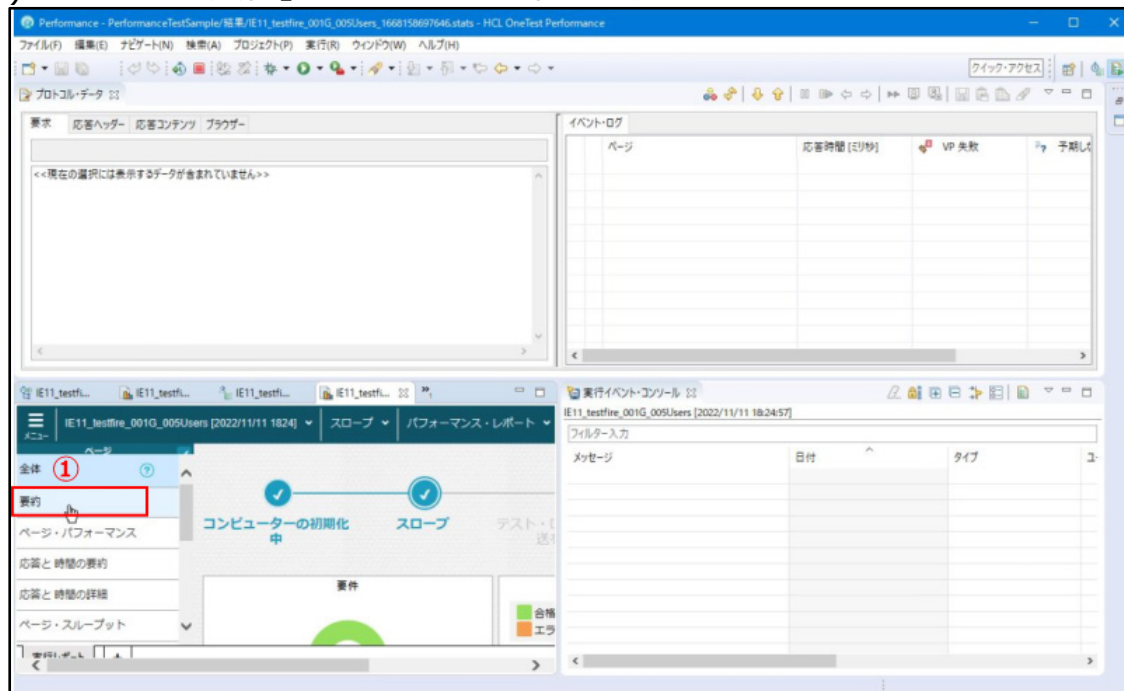
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

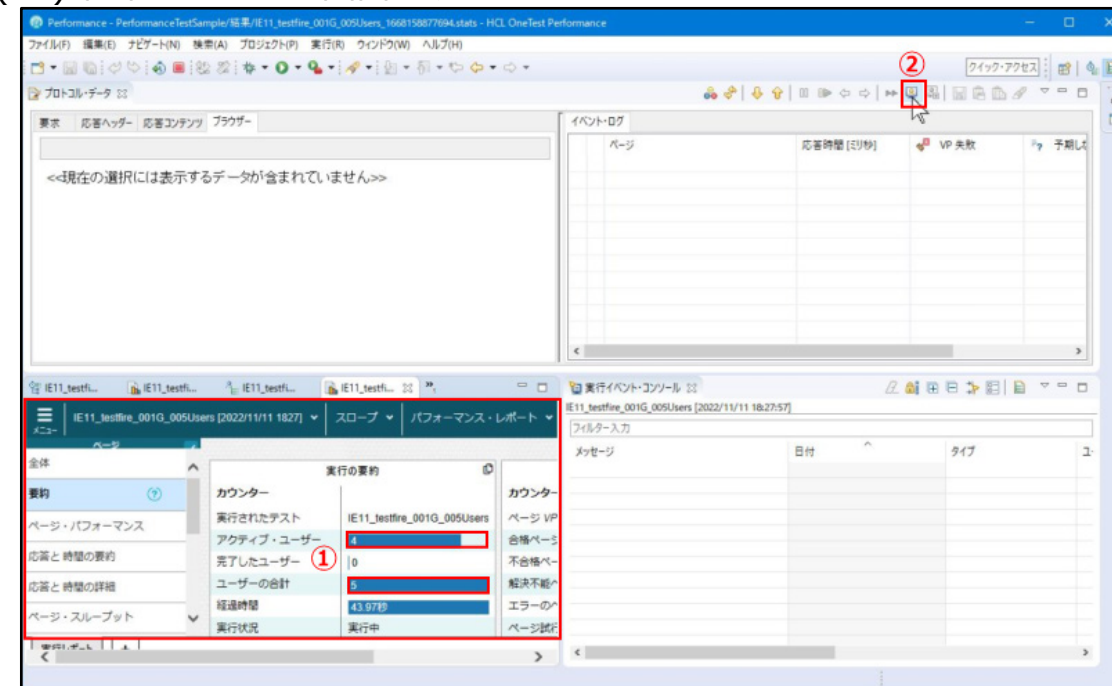
スケジュール利用

(15) 「テストの実行」パースペクティブに切り替わります。



① パフォーマンス・レポートのメニューから「要約」をクリックします。

(16) 結果レポートの画面が切り替わっています。



① 全5ユーザーのうち、4ユーザーが実行中で、残りはロード待ちです。

② ツール・バーから【仮想ユーザーの監視】をクリックします。

※これは、特定のユーザーの状況を監視する場合に使います。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

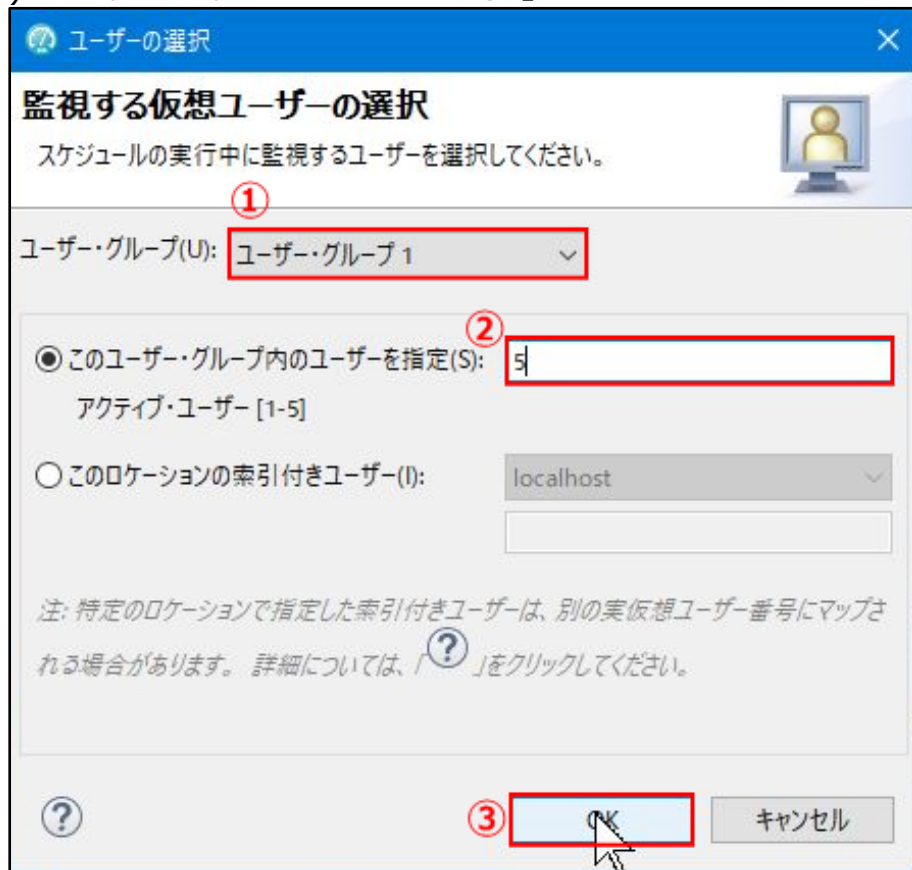
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

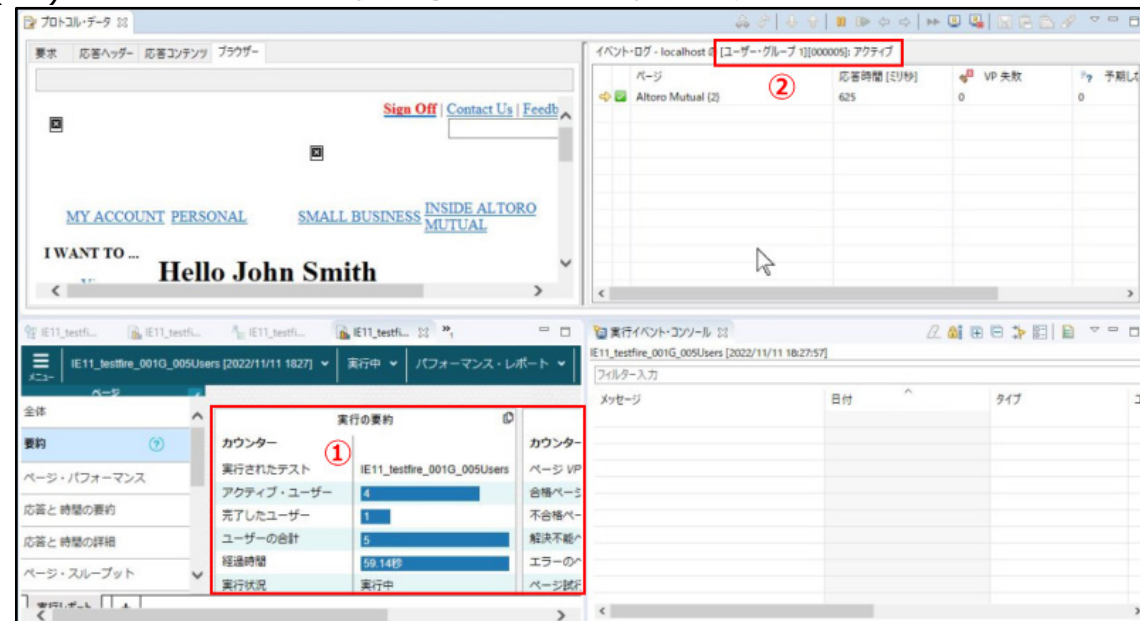
スケジュール利用

(17) 「監視する仮想ユーザーの選択」ダイアログが現れます。



- ①一覧からユーザー・グループを選択します(今回は1つのみ)。
- ②監視する対象のユーザーを番号で指定します(今回は5番目)。
- ③【OK】をクリックします。

(18) イベントログに監視対象ユーザーの状況が表示されます。



- ①全5ユーザーのうち1つが完了し、4つが実行中であることが判ります。
- ②ユーザー・グループ1のユーザー番号5の状況が不応辞されています。
※実行が完了するまで待ちます。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

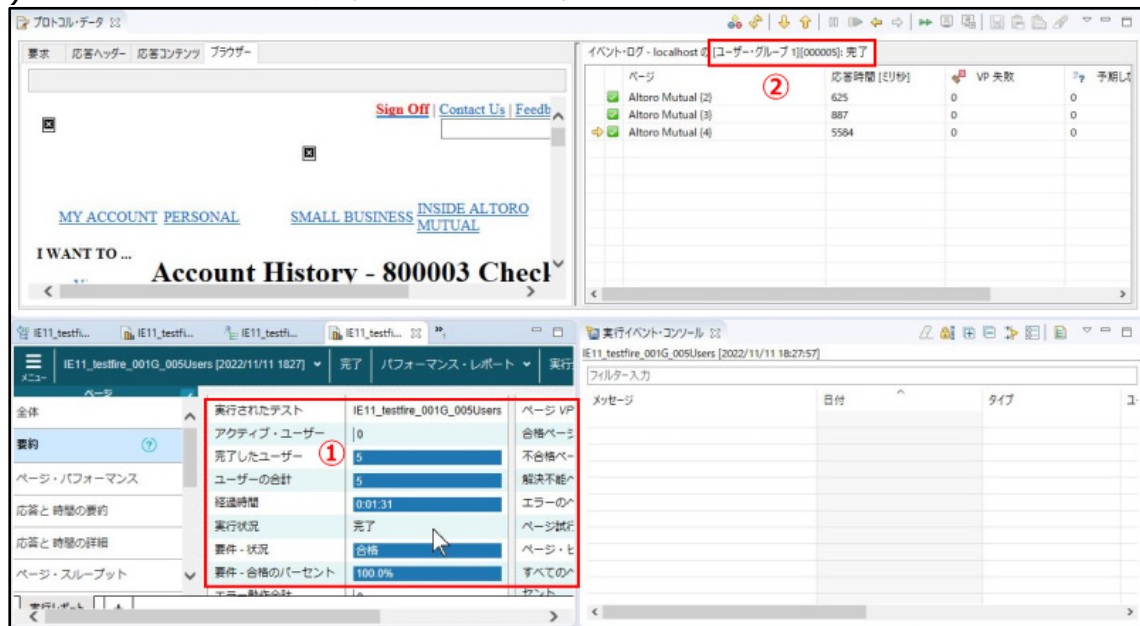
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

(19) 全てのユーザーの実行が完了した状態です。



- ①要約では、実行状況が「完了」となっています。
- ②監視対象ユーザーのステータスも「完了」となっています。
- ※パフォーマンス・テストのパースペクティブに戻ります。

(20) 結果レポートを最大化して表示しています。



- ①要約の全体情報となります。5ユーザーとも全て合格しています。
- ②ページ全体の情報となります。5ページx5ユーザー全て合格です。
- ③メニューから「ページ・パフォーマンス」をクリックします。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

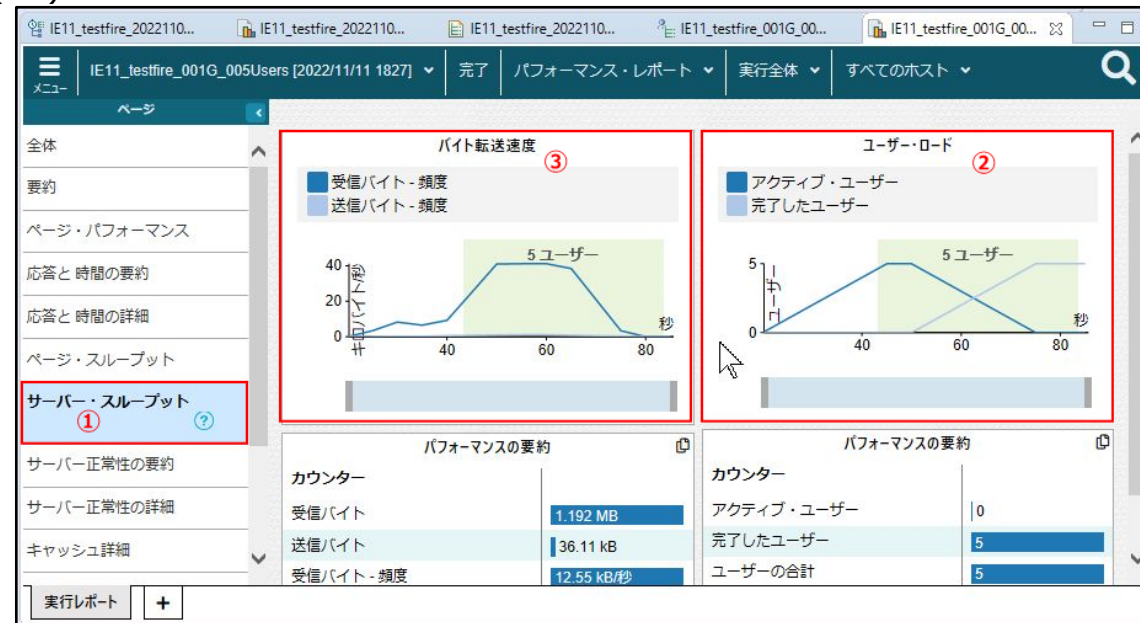
スケジュール利用

(21) 「ページ・パフォーマンス」が表示されています。



全ユーザーとも4番目のステップが他に比べ、時間が掛かっています。

(22) 続いて、「サーバー・スループット」を見てみます。



- ①メニューから「サーバー・スループット」を選択します。
- ②「ユーザー・ロード」では、なだらかなロードを示しています。
- ③「バイト転送速度」では、送受信データの速度が判ります。

2-6. スケジュール利用

製品の起動

プロジェクト作成

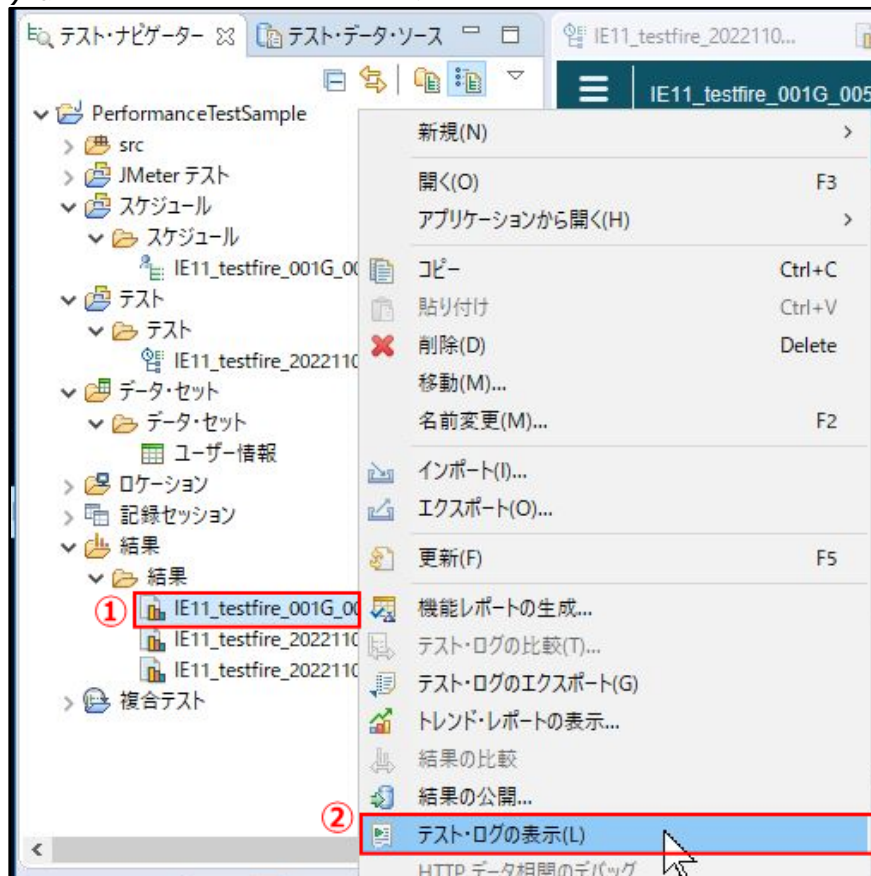
スクリプト記録

スクリプト再生

データ・セット利用

スケジュール利用

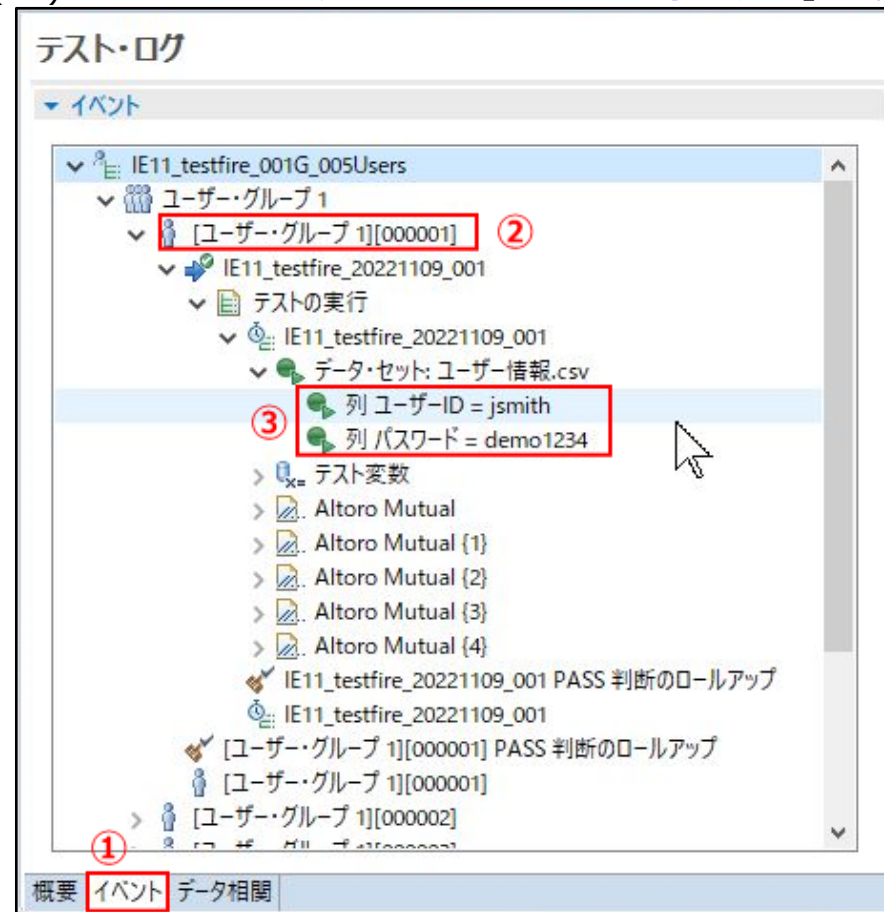
(23) 続いて、テスト・ログを見てみます。



①対象の結果レポートを選択し、右クリックします。

②ポップアップ・メニューから「テスト・ログの表示」を選択します。

(24) テスト・ログが表示されたら「イベント・タブ」に移ります。



①「イベント・タブ」に移っています。

②「ユーザー・グループ1」の「ユーザー1」を展開します。

③データ・セットから取得した、ユーザーID、パスワードになります。

3. 参考情報

- OneTest Performanceのオンラインヘルプ

<https://help.hcltechsw.com/onetest/hclonetestperformance/10.5.0/index.html>





HCL ソフトウェア 日本語ホームページ

<https://www.hcljapan.co.jp/software/>

 @HclJapan

<https://twitter.com/HclJapan>

 株式会社エイチシーエル・ジャパン

<https://www.linkedin.com/showcase/hcl-japan/>

\$10 BILLION | 159,000+ IDEAPRENEURS | 50 COUNTRIES

